

Title	野村兼太郎博士年譜及び著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of late Prof. Kanetaro Nomura, together with his chronology and a chronological table of socio-cultural history
Author	宇治, 順一郎 渡邊, 國廣 白井, 厚
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.10/11 (1960. 11) ,p.898(86)- 939(127)
JaLC DOI	10.14991/001.19601101-0086
Abstract	
Notes	野村兼太郎博士追悼
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19601101-0086">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19601101-0086</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

年	譜	著作目録	社会経済年表
1896年 (明治29年)	三月二〇日 野村兼吉、才たの長男として、東京市日本橋区浜町二丁目一―番地に生まる。		一八九五年 下関条約○台湾出兵。 一八九六年 台湾総督府条例成る○全国に近衛及び一二師団を置く、陸軍召集条例公布。 一八九七年 八幡製鉄所設置○足尾銅毒事件。 一八九八年 第三次伊藤内閣、第一次大隈内閣、第二次山県内閣○米西戦争始まる。 一八九九年 大井憲太郎ら日本労働協会を組織○中学校令、私立学校令公布○ポーア戦争起る。 一九〇〇年 義和団事件。 一九〇一年 第一次桂内閣○福沢諭吉、中江兆民死。 一九〇二年 日英同盟成立。 一九〇三年 幸徳、堺ら平民社設立、反戦論。 一九〇四年 日露戦争。 一九〇五年 ポーツマス条約○第一次ロシア革命。 一九〇六年 西園寺内閣成立○日本社会党結成。 一九〇七年 足尾銅山スト○三国協商形成。 一九〇八年 第二次桂内閣成立。 一九〇九年 伊藤博文ハルビンで狙撃される。 一九一〇年 大逆事件○韓国併合。
1902年 (明治35年)	四月 日本橋区久松小学校に入学。		
1908年 (明治41年)	三月 日本橋区久松小学校を卒業。 四月 東京府立第三中学校(現東京都立両国高校の前身)に入学。		
1913年 (大正2年)	三月 東京府立第三中学校卒業(四年終了にて進学)。 四月 慶應義塾大学理財科に入学。 九月 大学予修科設置。		
1915年 (大正4年)	七月 三辺金蔵留学より帰国。		

1916年 (大正5年)	1917年 (大正6年)	1918年 (大正7年)
三月 小泉信三留学より帰国。	この年 福田徳三教授の塾での最後の講義「日本経済史」古代「中世経済史」を聴く。 三月 留学生派遣の復活(第一次、増井幸雄、八年以後毎年)。 四月 医学科予科授業開始。 五月 三田新聞発刊。規定上初めて教授会の称呼。	三月 慶應義塾大学卒業。 四月 同大学助手となる○阿部秀助教授に師事○住居を大森区(現大田区)山王におく。 三月 福田徳三教授塾を去る。 一二月 大学令公布。従来の専門学校令の適用という私学の差別扱いが廃止された。
		◇論文 「経済価値論(1―3)」三田学会雑誌第12巻第11、12号、第13巻第1号 11月―8年1月
一九一一年 第二次西園寺内閣成立。 一九一二年 日本労働総同盟友愛会創立○第三次桂内閣○清、中華民国となり孫文大統領に就任。 一九一三年 第一次山本内閣。 一九一四年 シーメンス事件○護憲運動○第二次大隈内閣○第一次世界大戦始まる。 一九一五年 対華二一カ条要求○英仏露三国同盟条約に加入。 一九一六年 工場法施行○寺内内閣成立○英、ロイド、ジョージ内閣成立。 一九一七年 長崎三菱造船所大スト○ロシア革命。	米騒動(参加六〇万、被検挙者二万五千以上)起る、関係新聞記事禁止、大阪朝日白虹事件○シベリア出兵、ロシア革命に武力干渉○寺内内閣倒れ原内閣(政友会、最初の純政黨内閣)成立、普選要求を斥ける○第一次大戦終結して経済反動○この頃より本格的な金融独占資本主義へ発展○この頃大正デモクラシー、白樺派、新カント派哲学、文化主義、人格主義、教養主義、人道主義などの運動が高まって、武者小路実篤ら「新しき村」を日向に建設、吉野作造、福田徳三ら黎明会を組織、東大新人会、早大曉民会建設者同盟など生まれる○デューイ来朝。 (ソ)ソワイエト共和憲法可決。 吉野作造「日本主義の意義を説いて再び憲政有終の美を済すの途を論ず」(中央公論)、武者小路実篤「新しき村の生活」、阿部次郎「三太郎の日記」、徳富猪一郎「近世日本国民史」、田	

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

1919年(大正8年)

九月 慶應義塾大学予科教員を兼ねる。この年 住居を芝区二本榎に移す。三月 各学科長は教授会の互選となる。四月 医学科本科一年授業開始。一〇月 鎌田塾長国際労働大会に政府代表正使としてアメリカへ出発。

◇論文 「真」を求むる心」三田評論第20号 4月 「経済的史観論の価値(1-7)」三田学会雑誌第13巻第5、7、9、12号 5-12月

迎元「科学論」橋本成徳「農村自救論」河上肇「社会問題管見」福田徳三「労働経済講話」北沢新次郎「労働者問題」パリ平和会議、膠州、山東州を要求して承認○普選要求運動盛んとなる、東京、名古屋で普選期成大会、東京でデモ、全国有志大会○労働争議、組合結成増加、東京砲兵工廠、石川島造船、足尾銅山スト、神戸川崎造船サボ○朝鮮独立要求のデモ激化、三・一事件○大原社会問題研究所設立○大杉栄ら労働運動社を結成○大川周明、北一輝ら猶存社を結成(フアジズム運動の原流)○平塚雷鳥ら新婦人協会創立○松井須磨子自殺。(独) スバルタス団の革命弾圧、ワイマル憲法採択。(中) 排日五・四運動起る。吉野作造「普通選挙論」、権藤成徳「自治民権」、賀川豊彦「神運動と社会運動」、河田陽一郎「社会問題及社会運動」、田中玉堂「徹底的個人主義」、山川均「社会主義者の社会観」、鈴木文治「日本の労働問題」、北一輝「日本改造法案大綱」、和辻哲郎「古寺巡礼」、津田左右吉「古事記及び日本書紀の新研究」、竹越与三郎「日本経済史」、高島沢「資本論解説」、松浦生田「資本論」、河上肇「賃労働と資本」、「社会主義研究」、「社会問題研究」、「我等」改造「解放」、「女性同盟」など創刊。

三月 増井幸雄留学より帰る。四月 新学制を編成し、文学、経済学、法学、医学の四学部よりなる綜合大学とし、別に予科・大学院をおく。修業年限は予科三年、各学部三年(医のみ四年)、大学院は年限を定めず。○従来の理財科を経済学部と改称。

◇著書 「経済的文化と哲学」6月 国文堂書店 「経済的文化と哲学」(再版) 9月 国文堂書店 「経済的文化と哲学」(三版) 12月 国文堂書店 ◇論文 「労働組合の帰趨」三田学会雑誌第14巻第1号

戦後大恐慌、銀行取付六七行○全国普選期成連盟、普選期成全国労働大連盟結成、東京で大デモ、普選案は衆院で否決され、尾崎、犬養毅普選同盟会結成○上野公園にて日本最初のメーデー ○森戸辰男事件○八幡製鉄、東京市電スト○

1920年(大正9年)

学部長は堀江一教授(従前の理財科主任)が就任○経済学部の選択科目を甲乙二群にわけ、甲に「研究会」(一単位)をおき「卒業論文」を課した。必修科目は甲乙共通で、経済原論・経済学研究(英語)・貨幣銀行論・財政学・商業政策・統計学・民法・商法・英語。

1月 「労働の享楽化」改造第2巻第3号 3月 「中世G.H.の文化史上に於ける意義(1-3)」三田学会雑誌第14巻第4、6号 4-6月 「社会の強制力(特にデュルケムの学説に就いて)」三田学会雑誌第14巻第9号 9月 「古代法に現れたる家族制」三田学会雑誌第14巻第12号 12月 ◇著書 「田谷弘著 我国資本家階級の発達と資本主義的精神」三田学会雑誌第14巻第6号 6月 「滝本誠一著 経済一家言」三田学会雑誌第14巻第7号 7月 「金沢庄三郎著 言語に映じたる原人の思想」三田学会雑誌第14巻第9号 8月 「G. D. H. Cole の新著二種」三田学会雑誌第14巻第9号 8月 「米田庄太郎著 経済心理の研究」三田学会雑誌第14巻第10号 10月

友愛会において麻生、棚橋らの直接行動論と賀川らの普選必要論対立○堺、大杉、山川ら日本社会主義同盟(社会主義者の最初の統一組織)結成 ○海軍拡張案可決。 ○パリで国際連盟成立。 森戸辰男「クロボトキンの社会思想の研究」(経済学研究)、高島沢「資本論」(一)三年、小泉信三「経済学説と社会思想」、河上肇「唯物史観研究」、高島沢「社会問題総論」、吉野作造「社会改造運動における新人の使命」、賀川豊彦「死線を越えて」、西田幾多郎「意識の問題」、和辻哲郎「日本古代文化」、坂口昂「概観世界思潮」、手塚寿郎「ゴッセン研究」、滝本誠一「日本経済史」、厨川白村「象牙の塔を出でて」、豊崎善之助「普仏戦争以後の独逸経済」。

(大正10年)

七月 学位規程成る。

◇著書 「改訂経済的文化と哲学」(四版) 6月 国文堂書店 「社会生活と理想哲学」10月 下出書店 ◇論文 「親族関係と社会組織(1-2)」三田学会雑誌第15巻第1、2号 1-2月 「ギイディングスの歴史学説(1-3)」三田学会雑誌第15巻第3、5号 3-5月

原敬暗殺、高橋(政友会)内閣成立○ワシントン海軍縮小会議○日本海員組合結成○サンシカリズム全盛期○神戸三菱造船サボ、神戸川崎造船スト○友愛会、日本労働総同盟と改称、普選運動を無視○皖民共産党事件○プロレタリア文学運動始まる。(伊) イタリア共産党、イタリア・ファシズム党結成。(ソ) ネット採用。長谷川如是閑「現代国家批判」、河上肇「社会組織と社会革

「社会の個人に及ぼす強制力(ミルの自由論と其の生活)」太陽第27巻第6号 6月  
 「経済史研究に就いて(1-6)」三田学会雑誌第15巻第7-12号 7-12月  
 「感想」中央公論第36巻第11号 10月  
 ◇書評  
 「M. Beer: A History of British Socialism Vol. I」三田学会雑誌第15巻第1号 1月  
 「滝本誠一 日本経済史」三田学会雑誌第15巻第2号 2月  
 「三浦周行 国史上の社会問題」三田学会雑誌第15巻第3号 3月  
 「和辻哲郎 日本古代文化」三田学会雑誌第15巻第4号 4月

命「福田徳三「経済学論攷」、土田杏村「マルクス思想と現代文化」、美濃部達吉「日本憲法」、倉田百三「愛と認識との出発」、西田天香「櫻痴の生活」、木下尚江「田中正造翁」、波多野精一「西洋宗教思想史」、佐野学「露西亜経済史研究」、塚原「空想的及科学的社会主义」、天野訳「精神理性批判」、「種詩人」創刊。

四月一日 ヨーロッパ留学のため熱田丸で横浜を出帆。留学中の研究科目は「古代中世経済史」「日本経済史」、在留国は英・独・仏、期間は三カ年。五月二五日 ロンドン着。六月 ロンドン近郊のハロオに下宿し、読書生活に入る(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスへ講義をききにいく)。七月 スコットランド旅行。イギリスをバアマインガムに訪れる。

◇著書  
 「アンシュレー 英国経済史及学説(上巻)」7月 岩波書店  
 「角田陸雄 新労働組合運動」三田学会雑誌第16巻第2号 2月  
 「福田徳三 社会政策と階級闘争」三田学会雑誌第16巻第3号 3月

ワシントン条約調印○加藤内閣成立○日本共産党創立、山川の方向転換論、サンジカリズムを批判してアナ・ボル論争○日本農民組合結成、京都に全国水平社大会○過激社会運動取締法案貴院通過、衆院否決○日英同盟廃棄○健康保険法公布○資本蓄積論をめぐる福田-河上論争、価値論をめぐる小泉-山川-河上-樋田論争。  
 (伊) 全国的に労働者とファシスト衝突、ムッソリーニ、ローマへ進軍。  
 (ソ) 第一回全連邦ソヴェエト大会、CCCP樹立宣言。  
 (印) ネルーらスワラジ党結成。  
 山川均「無産階級運動の方向転換」(前掲)、長谷川如是「現代社会批判」、福田徳三「社会政策と階級闘争」、塚原「社会主义大意」、吉野作造「三重政治と権威主義」、有島武郎「宣言一つ」、高田保馬「社会と国家」、荒畑寒村「日本社会主義運動史」、片山潜「自伝」、阿部次郎「人格主義」、桑本敏賢

る。その結果留学期間の大部分を英国で過ごすことに予定を変更。  
 四月 専門学校令による専門部創設。  
 六月 鎌田勤長辞任(加藤内閣に文部大臣として入閣)。門野幾之進に跡長事務嘱託。  
 一二月 福沢社頭が塾長を兼任。

一月 研究テーマ「英国の社会的発展における都市の発達と資本主義的経済組織との関係」の構想。その研究のためリブソンに師事する予定を変更し、アンシュレーの推挙でケンブリッジに入学するかクラッパムのもとで個人的指導を受けることを決心。  
 二月 フランス・ベルギー・オランダ旅行。  
 四月 ケンブリッジ大学キングスコレッジに入学。図書館での勉強を主とし、講義はクラッパム「英国経済史」、ロバートソン「労働問題」などをきく。  
 七一〇月 長期休暇の大部分をドイツ(特にベルリン)で過ごす。インフレ激化、関東大震災

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

「文化と改造」、朝永三十郎「カントの平和論」、平林初之輔「文芸運動と労働運動」(種詩人)、左右田晋一郎「経済哲学の諸問題」、中村孝也「稿本国民文化史概論」、内藤訳「家族・私有財産・国家の起源」、「前衛」発刊。

過激社会運動取締法案、労働組合法案、小作爭議調停法案に対する反対運動激化○東京で普選即行要求国民大会、デモ○第一次共産党検査事件○関東大震災、朴烈事件、亀戸事件、震災恐慌○第二次山本内閣成立して普選実施声明、戒嚴令○甘粕事件、大杉榮夫妻殺され、アナーキズム後退○虎の門事件で山本内閣辞職○日本労働組合連合会結成○ILO帝國事務所成る○上杉、高島ら経倫学盟結成○有島武郎自殺。  
 (独) フランス、ベルギー軍ルール地方を占領、ヒットラーの運動起る、戦後インフレによりマルク大暴落、レンテナマルク紙幣発行。  
 (英) 労働党総選挙に勝つ。  
 (中) 孫文の国民党、親ソ共政策を開始。  
 河上肇「資本主義経済の史的発展」、河合榮治郎「社会思想史研究」、大山郁夫「政治の社会的基礎」、小泉信三「価値論と社会主義」、上田貞次郎「英国産業革命史論」、佐野学「日本経済史概論」、青野季吉「階級闘争と芸術運動」(種詩人)、西田幾多郎「芸術と道徳」、田山花袋「近代の小説」、山本宣治「性教育」、佐野訳「経済学批判」。



災の報へ帰国命令を予想し金ドイッ  
を旅行。  
一月 新学年にピグー「経済  
原論」聴講。英国中世の研究  
に困難を感じる。  
四月 経済学部の選科甲に「社会学」  
と「憲法」をおく。  
一月 林政監部長となる。

1924年(大正13年)

三四月 春季休暇に南欧(イタ  
リヤ・南フランス・オーストリー・ハ  
ンガリー・スイス)旅行。  
六月 この頃大震災の影響によ  
る為替事情悪化に苦しみ始め  
る。文科(社会)科学の困難を  
痛感。自然科学への関心と羨  
望。  
八月 ケンブリッジでの生活は  
経済的に行詰る。ケントのパ  
ドックハウッドに移り、読書  
生活を続ける(読書、散歩・ケン  
ト地方見学、村人との交友、ブリッジ  
に興ずる)。古代文化の研究、宗  
教的信仰への関心。

清浦(特権)内閣成立、第二次護憲運動起り、総  
選挙に護憲三派大勝して加藤(連立)内閣成立、  
ブルジョア・デモクラシーの絶頂期○山川ら共  
産党解党決議○労働運動、アナーキズムから大  
衆運動へ進み、社会民主主義と共産主義が対立  
○産業労働調査所(野坂参三主任)設立○阿部磯雄  
ら日本フェビアン協会創立○阿部、大山、賀川、  
島中ら政治研究会結成○社会政策学会解散○小  
山内、土方らによって築地小劇場創立○婦人参  
政権獲得期成同盟結成○学生社会科学連合会結  
成○大川、西田ら行地社を組織。  
(英) マグドナルド内閣成立。  
(米) 大統領排日法案に署名。  
大杉栄「自叙伝」、安部磯雄「社会主義の時代」、山川菊枝「社  
会進歩と婦人の地位」、福本和夫「経済学批判のうちに於ける  
マルクス「資本論」の範圍を論ずる」、上田貞次  
郎「産業革命史研究」、本庄栄治郎「日本社会史」、津田左右  
吉「神代史の研究」、内村鑑三「ロマ書の研究」、堀江編「英  
国現代の経済」、田辺元「カントの目的論」、青野沢「帝國主  
義論」、片山汎「国家と革命」、「文芸戦線」、「文芸時代」キン  
グ」創刊。

1925年(大正14年)

一月二九日 パドックハウッド  
発。  
三月一九日 箱根丸で帰国。  
四月 慶應義塾大学経済学部教  
授となる。「商業史」「経済学  
研究(英語)」「研究会」を担当。  
一月 阿部秀助教授死去。  
四月 専門部を高等部と改称。

(大正15年)  
昭和元年

四月 「近世商業史」(「商業史」に  
かわり)を担当。  
一二月 長女美佐子出生。  
四月 氣賀勘重教授経済学部長とな  
る。予科に休操(各学年二時間)を  
おく。  
九月 新造監局の建築(翌年五月竣  
工)。

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

◇論文  
「英国都市起源考」三田学会雑誌第19巻第7号  
7月  
「近世初期に於ける英葡通商関係と Methuen  
条約」三田学会雑誌第19巻第10号 10月

◇著書  
「近世商業史」4月 改造社  
「経済史研究(第一巻)」5月 叢文閣  
◇論文  
「古代英国経済史考断片」三田学会雑誌第20巻  
第1号 1月  
「第十九世紀英国貿易概論」三田学会雑誌第20  
巻第3号 3月  
「英蘭徒弟制度の変遷」三田学会雑誌第20巻第

日ソ基本条約、日ソ利権協約調印、国交回復○  
普通選挙法公布○治安維持法公布、東京、大阪  
で反対運動○文教審議会で軍事教練施行案可  
決、都下の大学生九段から芝公園まで軍教反対  
デモ○全国中等学校に軍事教育を実施○第二次  
加藤(単独)内閣成立○総同盟第一次分裂、  
共産系は日本労働組合評議会結成○農民労働党  
(最初の全国的無産政党)結成、即日禁止○国勢調査  
及び失業統計調査を行なう○ラジオ放送開始。  
○ロンドンにてワルノ会議開き条約締結。  
(伊) ファシスト内閣成立。  
(中) 広東に中華全国総工会組織、上海でゼネスト(五三  
〇事件)、上海の反帝國主義暴動に各國陸隊上陸。  
大山都夫「現代日本の政治過程」、森戸辰男「思想と闘争」、  
細井和喜蔵「女工哀史」、赤松克彦「日本労働運動発達史」、本  
庄栄治郎「近世農村問題史論」、福田徳三「経済史研究」、猪  
俣津南雄「金融資本論」、平野義太郎「法律に於ける階級闘  
争」、上杉慎吉「国家論」、安倍能成「カントの実践哲学」、朝  
永三十郎「デカルト」、田中玉堂「象徴主義の文化人」、田辺  
元「数理哲学研究」、石原純「科学の根本問題」。

若槻(憲政会)内閣成立○日本共産党再組織(山形  
県五色温泉にて)、山川イズムから福本イズムへ○  
労働農民党(左派)、社会民衆党(右派)、日本労働  
党(中間派)結成○総同盟第二次分裂○共同印刷、  
日本楽器スト○労働争議調停法公布○大学、高  
専に軍事教育実施○岡田文相、学生の社会科学  
研究絶対禁止通達○全日本学生自由擁護連盟  
(SL)組織。  
(中) 蔣介石、国民革命軍を組織して北伐開始、漢口占領。

1926年

6号 6月  
「Liber Albus」に現れたる倫敦の経済生活」  
三田学会雑誌第20巻第12号 12月  
◇著書  
「R. H. Snape: English Monastic Finance in the Later Middle Age」三田学会雑誌第20巻第9号 9月  
「M. S. Miller: The Economic Development of Russia from 1905-1914」三田学会雑誌第20巻第10号 10月

福本和夫「山川氏の方角転換論の転換より始めざるべからず」(マルクス主義)、三木清「パスカルにおける人間の研究」和辻哲郎「日本精神史研究」小泉信三「近世社会思想史大要」森井二郎「リカード価値論の研究」大島正徳「近世英国哲学史」大川周明「日本及び日本人」石浜知行「ドイツに於ける資本主義の発達」瀧本・向井編「日本産業資料大系」宮川誠「経済学批判」山川・西編「ニヒン著作集」社会問題講座「刊行開始」マルクス主義の旗の下に」創刊。

九四 (九〇六)

1927年(昭和2年)

五月 住居を神奈川県鎌倉町大町蔵屋敷に移す。  
一月 図書館の増修に着手(翌年八月竣工)。  
二月 期江福一教授死去。

◇著書  
「歐洲印象記」6月 日本評論社  
◇論文  
「古代英国都市概論(英国都市発達史の一節)」三田学会雑誌第21巻第1号 1月  
「倫敦に於けるハンザの Steelyard」三田学会雑誌第21巻第4号 4月  
「Riccart's Kalendar に就いて」三田学会雑誌第21巻第5号 5月  
「Piers the Plowman」を通じて見たる英国社会状態」三田学会雑誌第21巻第8号 8月  
「第十七世紀前半に於ける英国東印度会社の状態」三田学会雑誌第21巻第10号 10月  
「外国経済に関する新刊書」三田学会雑誌第21巻第12号 12月

金融恐慌起り、銀行商社の破産続出○田中(政友会)内閣成立、労働運動弾圧激化、全国に三週間モラトリアムを施行○第一次山東出兵、青島に上陸○立憲民政党結成(総裁張口維善)○ジュネーブ軍縮会議○普選第一回府県会議員選挙、無産派二九名当選○コミンテルン二七年テーゼ、山川、福本イズム批判、「労働」講座」派分裂○野田醬油、磐城炭坑、小樽仲仕、芝浦鶴見争議○東京に地下鉄開通○前衛芸術家同盟創立○芥川竜之介自殺。  
○ジュネーブで第一回世界経済会議、国際貿易会議。  
(中) 上海でゼネスト、蔣介石反共クーデター、上海漢口で排日暴動、南京政府樹立、中国共産党広東を占領。  
(米) リンドバーク、大西洋横断飛行。  
三木清「人間学」マルクス主義的形態(思想)、安部磯雄「社会民衆党綱領解説」、美濃部達吉「返答憲法精義」、西田幾多郎「働くものから見るものへ」、和辻哲郎「原始仏教の實踐哲学」、吉野作造「政治学研究」、土方成美「マルクス価値論研究」、瀧本誠「歐洲経済史」(労働)創刊、大山・河上監修「マルクス主義講座」(岩波文庫)刊行開始。

1928年(昭和3年)

四月 住居を神奈川県鶴沼藤ヶ谷七三四番地に移す。

◇著書  
「英国資本主義成立史」12月 改造社  
◇論文  
「経済史研究序論(歴史哲学の一考察)」三田学会雑誌第22巻第1号 1月  
「Sir William Ashley を憶ふ」三田学会雑誌第22巻第3号 3月  
「産業革命前に於ける英国社会状態概論」三田学会雑誌第22巻第8号 8月  
「大発明時代」成人第3巻第13号 9月  
「英国産業革命研究資料一般」三田学会雑誌第22巻第10号 10月

普選最初の総選挙、無産政党内閣当選○第二次、第三次山東出兵、濟南事件、大陸侵攻積極化、関東軍により張作霖爆死○共産党一斉検挙(三・一五事件)○治安維持法改訂、死刑、無期を追加、特高警察新設、憲兵に思想係設置○文部省の思想統制強化、大学高専に学生生徒主事設置の勅令発布○日本商工会議所設立○日ソ漁業条約調印、日独通商条約批准○全日本無産者芸術連盟(ナツプ)結成、プロレタリア文化運動活性化○全国反戦同盟結成○東京電力、印刷局、海員組合、東京モス争議。  
○パリで一五カ国代表、クロック・ブリアン不戦条約調印。  
(ソ) トロツキー追放、農業コルホーズ化。  
(中) 国民軍北京入城、南京を首都として全国統一、治外法権と不平等条約破棄宣言。  
「マルクス・エンゲルス全集(一九九年)、河上肇「資本論入門」改造社「経済学全集」明治文化全集(一五年)平凡社「社会思想全集」刊行開始、三木清「唯物史観と現代の意識」、河上肇「経済学大綱」、猪俣津南雄「帝國主義研究」、高橋貞吉「日本資本主義発達史」、黒正雄「百姓一揆の研究」、藤原健人「プロレタリア・レアリズムへの道」(戦旗)、佐野・西スターリン・ブハーリン著作集、本庄栄治郎「経済史概論」、福田徳三「唯物史観経済史出立点の再吟味」、小林良正「ドイツ経済史要」、瀧本誠「日本経済大綱」。

四月 担当「近世商業史」「英語経済学」「経済史特殊問題」「研究会」「同予習」となる。  
四月 経済学部を甲乙二班にわけ、初めて単位制を採用した○必修科目は

◇著書  
「世界商業史(総論古代篇)」11月 丸善株式会社  
◇論文  
「英国に於ける労働者階級の発生」三田学会雑誌

浜口(民政党)内閣成立○世界大恐慌始まる○官吏減俸案決定するも判検事らの反対で撤回○労働党山本宣治刺殺事件○共産党員大検挙(四二六事件)○大山郁夫ら新労働党結成○プロレタ

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

九五 (九〇七)

甲班、経済原論2、財政学(甲)2、統計学、経済政策、英語経済学3、近世経済史、経済学3、民法3、近世経済史、経済学2、財政学(乙)、統計学、経済政策、英語経済学3、独(または)仏語経済学3、民法3、會計学(第一部)、経営経済学、商法3、選科科目は二班とも第一、第二を設け、第二選科科目は二班に共通とし、甲乙班とも第一選科科目に研究会2及び同予習を設けた。新設講座には、必修の経済政策、選科では甲班の第一に経済学前史、日本経済学説研究、社会思想史、乙班の第一に金融論(特殊)、海運経営、工業経営、経済地理、経済心理、経済統計、共同海損及び海上保険、第二選科には都市経済論、景気変動論、陸運経営その他各科目特殊がある。

誌第23巻第1号 1月  
「我が国に於ける産業革命」 成人第4巻第1号 1月  
「イギリス経済史」 改造社経済学全集第29巻「各国経済史」 2月  
「我が国に於ける近世的商業の萌芽—町人階級発達史序説—」 三田学会雑誌第23巻第7号 7月  
「英国に於ける道路の発達と産業革命」 三田学会雑誌第23巻第10号 10月

九六 (九〇八)  
リア科学研究所創立○社会政策審議会設置○東京市電・横浜船渠、横浜市電、東洋モス爭議○プロレタリア作家同盟創立。  
(米) ウォール街株式市場大暴落、農村不況深刻化。  
(仏) パリ株式市場大暴落。  
(印) 第一次五年計画着手。  
(印) 全印度国民会議大衆的不服従運動決議。  
(印) 一ヶ月賠償会議、ヤング案審議。  
小林多喜二「蟹工船」(戦旗)、徳永直「太陽のない街」(戦旗)、吉野作造「日本無産政党論」、土田杏村「思想問題」、河合榮治郎「英国労働党のイデオロギイ」、高田保馬「価格と独占」、堀経夫「リカドゥの価値論及びその批判史」、波多野鼎「価値学説史」、服部之雄「明治維新史」、小泉信三「リカドゥ研究」、羽仁五郎「戦形期の歴史学」、戸坂潤「科学方法論」、「プロレタリア科学」創刊。

三月 次女巳伊子出生。  
四月 新しく「日本経済学説研究」をも担当。  
一二月 社会経済史学会を組織し、理事に就任。  
四月 三田金蔵教授経済学部長となる。

◇論文  
「運河と産業革命」 三田学会雑誌第24巻第3号 3月  
「英国初期救済法と労働者階級」 経済史研究第6号 4月  
「英国綿業の発達と商業—綿業に於ける産業革命序説(一)—」 三田学会雑誌第24巻第6号 6月  
「商業史」 改造社経済学全集第31巻「日本経済史」 7月  
「我が国民思想変遷の概要」 成人第5巻第9号、第6巻第1・2号 9月—6年2月  
「英国綿業に於ける家内労働者—綿業に於ける

金輸出解禁○ロンドン海軍軍縮会議、日英米協定成立○諸株式一斉暴落○全国一斉に共産党検査(二月事件)○鐘紡、「東京市電スト」、農村豊作飢饉○浜口首相東京駅で狙撃される○全国労働組合結成○思想問題に關して私立大学学長會議○平野義太郎、山田盛太郎、三木清ら検査○社会経済史学会創設。  
○ 国際決済銀行設立。  
(米) 銀行破産続出、失業救済委員会設置。  
(甲) 會議派大会、完全独立を決議、各地に反英暴動起る、ガンジー捕縛。  
野呂榮太郎「日本資本主義発達史」、河上肇「第二貧乏物語」、津田左右吉「日本上代史研究」、西田幾多郎「一般者の自覚的

産業革命序説(二) 三田学会雑誌第24巻第11号 11月  
「英国産業革命研究資料補遺」 三田学会雑誌第24巻第1号 1月

体系、桑本敏賢「哲学概論」、河合榮治郎「トーマス・ヒル・グリンの思想体系」、猪俣津南雄「日本無産階級の戦術」、美濃部達吉「現代憲法評論」、蔵原惟人「ナツプ芸術家の新しい任務」(戦旗)、大内兵衛「財政学大綱」、高田保馬「経済学新講」(一七年)、森耕二郎「労賃学説の史的発展」、村岡典嗣「日本思想史研究」、九鬼周造「いき」の構造、石浜知行「アメリカ資本主義発達史」、木村靖二「日本農民闘争史」、阿部知二「主知的文学論」、山田清三郎「日本プロレタリア文藝運動史」、「マルクス主義の旗の下に」創刊、春秋社「世界大思想全集」。

◇著書  
「日本経済学説史資料(第一分冊)」 5月 慶應義塾出版局  
「日本経済学説史資料(第二分冊)」 10月 慶應義塾出版局  
◇論文  
「道路改良の必要」 道路の改良第13巻第1号 1月  
「世界商業史要」 改造社経済学全集第38巻「商業学(下)」 1月  
「山鹿素行の価格論」 法律春秋第6巻第2号 2月  
「山鹿素行の経済学説」 三田学会雑誌第25巻第4号 4月  
「上代に於ける犯罪の觀念」 犯罪学雑誌第4巻第2号 4月  
「初期資本家形態としてのClothier」 社会経済史学第1巻第1号 5月  
「徳川初期経済論の社会的意義」 思想第109号 6月  
「道路と文化」 道路の改良第13巻第7号 7月

凶作、小作争議激化、資本主義危機に直面○第二次若槻内閣、ついで犬養(政友会)内閣成立○満洲事変起る、国際連盟理事会の撤兵勧告を拒否、上海排日運動激化のため陸戦隊出動、○満洲に宣統帝を擁立せんとす○重要産業統制法公布、官吏減俸実施、金輸出再禁止○三井財閥のドル買い問題○全国労働大衆結成(社会民主主義統一)、対華出兵に反対○共産党三一年テーゼ採択、極左冒険主義化○井上日召ら血盟団結成、全日本愛国者協同闘争協議会創立(右翼の運動統一)、右翼労働組合、日本労働クラブを結成○桜会、錦旗革命事件○ナツプ解消して日本プロレタリア文化同盟(コップ)結成。  
○ フーバー、モラトリアム宣言。  
(英) 金本位制離脱、各国も続く。  
蔵原惟人「芸術理論に於けるレーニン主義のための闘争」(ナツプ)、向坂・柳田・宇野・山田「資本論体系」、河合榮治郎「社会政策原理」、高田保馬「マルクス価値論の吟味」、山口正太郎「重農学派経済学」、菊川忠雄「学生社会運動史」、三木清「觀念形態論」、吉野作造「対支問題」、「ヘーゲル全集」



「岩波講座・哲学」刊行開始。

「明治維新革命の必然性」 経済往来第6巻第7号 7月  
 「社会生活と物質的基礎—経済史の話—」 成人第6巻第8号 8月  
 「正徳享保時代の社会経済論概説」 三田学会雑誌第25巻第9号 9月  
 「本居宣長の社会思想史上に於ける地位」 法律春秋第6巻第10号 10月

◇書評  
 「菅野和太郎 日本社会企業発達史の研究」 時事新報 8月  
 「幸田博士の「和蘭夜話」」 三田新聞 10月

◇辞典  
 「大陸封鎖」 岩波書店刊「経済学辞典」 2月  
 「開屋制度」 岩波書店刊「経済学辞典」 2月  
 「東印度会社」 岩波書店刊「経済学辞典」 2月  
 「ハンザ同盟」 岩波書店刊「経済学辞典」 2月  
 「マアチャント・アドヴェンチュラス」 岩波書店刊「経済学辞典」 6月

四月 担当科目「古代中世経済史」「近世経済史」「日本経済史」「経済史特殊問題」「近世商業史」「日本経済学説研究」「研究会」となる。

二月 「福沢諭吉伝」刊行。  
 四月 経済学部第二選択科目に倫理学(東洋・西洋)2をおく。  
 五月 経済学部助教授をおく。  
 五月 創立七十五年記念式挙行。

◇著書  
 「世界経済発展史論」 2月 同文館  
 「日本経済学説史資料(第三分冊)」 11月 慶應義塾出版局

◇翻訳  
 「アンシュレー 英国経済史及学説」 4月 岩波書店

◇論文  
 「古代都市の道路計画」 道路の改良第14巻第1号 1月  
 「太宰春臺の経済論」 三田学会雑誌第26巻第2号 2月

上海事変、リットン調査団訪日、国連総会日華停戦勸告決議、日華停戦交渉協定成立○満洲国建国宣言、日滿議定書調印、三井三菱対満三千万円融資を契約○五・一五事件、大養首相暗殺され、斎藤内閣(政党内閣協力)成立○社会大衆党結成(合法無産政党的戦線統一)○日本労働組合会議結成(右派労組の全国統一機関)○共産党、三一年テレーを批判して三二年テレー決定、天皇制の評價重視、熱海事件○東京各所で米よこせデモ

1932年(昭和7年)

八月 瀧本誠一教授死去。

号 2月  
 「計画と実行」 法律春秋第7巻第2号 2月  
 「慌しき世相」 経済往来第7巻第7号 7月  
 「社会生活と道路」 道路の改良第14巻第7号 7月  
 「获生徂徠の経済論」 三田学会雑誌第26巻第8号 8月  
 「資本主義の発達・独占資本主義の時代」 春秋社刊「世界経済問題講座」 8月  
 「瀧本誠一博士逝く」 社会経済史学第2巻第6号 9月  
 「明治維新と日本資本主義・日本資本主義の発達」 春秋社刊「世界経済問題講座」 9月  
 「徳川時代に於ける商業論の変遷」 三田学会雑誌第26巻第10号 10月  
 「都会と道路(一)」 道路の改良第14巻第11号 11月  
 「熊沢蕃山の経済論」 社会経済史学第2巻第8号 11月

◇書評  
 「滝川政次郎氏の「律令の研究」を読む」 時事新報 1月  
 「日本資本主義発達史講座」批評」 三田新聞 5月  
 「小野武夫氏「維新農村社会史論」を読む」 時事新報 7月

一月 慶應義塾大学経済史学会を創立し、会長となる。  
 八月 住居を神奈川県藤沢町大

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

◇論文  
 「世界恐慌史」 春秋社刊「世界経済問題講座」 1月

戸坂潤ら唯物論研究会組織、唯物論全書刊行○大日本国防婦人会結成○坂田山心中事件、エログロの報道盛ん。

(徳) 賠償不払宣言、総選挙にナチ第一党。  
 (英) オッターワ英帝國経済会議。  
 (米) 満洲国不承認宣言、ルーズベルト大統領に当選。  
 「日本資本主義発達史講座」(一八年)刊行、長谷川如是閑「日本フアンダム批判」、滝川幸辰「刑法論本」、戸坂潤「イデオロギー概論」、三木清「歴史哲学」、西田幾多郎「無の自覚的限定」、田辺元「ヘーゲル哲学と弁証法」、高橋里美「全体の立場」、川合貞「マルキシズムの哲学的批判」、土方成美「フアンダム」、橋本三郎「日本愛国革新主義」、市川正一「日本共産党小史」、高橋誠一郎「重商主義経済学説研究」、五島茂「ロバート・オウエン著作史」、林房雄「作家のために」、小林多喜二「党生活者」、金融研究会「恐慌と世界経済」、「世界経済問題叢書」。

満洲国経済建設大綱発表、国際連盟脱退○北京に侵攻、日中停戦協定成立○米穀統制法公布、日本製鉄会社法公布(国家統制本格化)○閣議、思想



1933年(昭和8年)

録御所ヶ谷一四六番地に新築し、移転す。  
四月 予科の休職を教練とした。自然科学・政治学通論をおく(但し生物學・数学・地理を減じた。  
一月 小泉信三教授校長に就任。

- 「経済史の意義について」三田学会雑誌第27巻第2号 2月
- 「道路観の発達」道路の改良第15巻第4号 4月
- 「英国阿弗利加会社と黒奴貿易」福田徳三博士追憶論文集「経済学研究」4月
- 「英帝国経済勢力圏」春秋社刊「世界経済問題講座」5月
- 「道路費の負担について」道路の改良第15巻第8号 8月
- 「新井白石の経済論」三田学会雑誌第27巻第8号 8月
- 「社会事業の意義」社会事業研究第21巻第9号 9月
- 「白色人種の天下」世界経済問題講座「附録」10月
- 「徳川時代社会経済論の本質」社会経済史学第3巻第8号 12月
- ◇書評  
「荒木光太郎氏著「貨幣制度概論」を読む」時事新報 3月
- 「英国経済史に関する新刊書若干」三田学会雑誌第27巻第7号 7月
- 「西村博士の古代市場の研究」時事新報 8月

五月 長男篤出生。  
二月 元路長藤田榮吉氏死去。  
四月 高橋誠一郎教授経済学部長となる。  
五月 神奈川県日吉台に校舎完成し、予科を移す。

- ◇著書  
「徳川時代の社会経済思想概論(新経済学全集31)」10月 日本評論社
- 「荻生徂徠(社会科学の建設者、人と学説叢書)」11月 三省堂

対策協議会の設置決定○京大流川事件○富田、久原ら軍部に対抗して政連合運動○新居、秋田、三木、木村、徳田ら学芸自由同盟結成○大塚、河上、三枝、宮本、野呂ら検察されて左翼崩壊、小林多喜二虐殺される。佐野、鍋山ら転向、転向者統出○社会大衆党、国家資本主義と民族主義に転向○松岡ら政連消滅連盟結成○日本資本主義論争(一二年)、マニユフアクチュア論争。  
(米) 金輸出禁止、ニュー・デール政策に着手、AAA、TVA制定。  
(独) ヒットラー内閣成立、国会議事堂放火事件、議會ヒットラーに独裁権を与える、外債モラトリアム実施宣言、国際連盟と軍縮會議から脱退、アインシュタイン追放。  
三木清「不安の思想とその超克」(改造)、西田幾多郎「哲学の根本問題」津田左右吉「上代日本の社会及び思想」服部之雄「明治維新史研究」、小泉信三「マルクス死後五十年」、上田貞次郎「日本人口問題研究」、中山伊知郎「精神経済学」、森戸・笠「剰余価値学説略史」、向坂通郎「地代論研究」、室伏高信「マルクスを乗り越えて」、佐野学「コミンタンの役割」(改造)、「文学界」創刊。

ワシントン海軍軍縮条約廃棄○帝人疑獄事件で斎藤内閣倒れ、岡田(官僚)内閣成立、政連勢力退いて軍部独裁進む○満洲国帝政実施○日英通商會議開催○武藤山治暗殺される○一月事件(陸軍青年将校クーデター計画)○中条百合子検挙、野

1934年(昭和9年)

七月 伊藤秀一教授死去。

- ◇論文  
「旗本困窮の過程について」三田学会雑誌第28巻第1号 1月
- 「鉄道と道路の発達について」道路の改良第16巻第1号 1月
- 「印度論」慶應義塾産業研究会編「産業研究」十周年特輯「世界経済戦と我国産業の動向」2月
- 「貝原益軒の社会経済思想」三田学会雑誌第28巻第6号 6月
- 「水辺の散歩道路について」道路の改良第16巻第8号 8月
- ◇書評  
「マンチェスターに於ける社会経済的調査」(J. S. Ashton, Economic and Social Investigation in Manchester 1883-1933 pp. xli, 179, 1934) 三田学会雑誌第28巻第8号 8月
- 「岩橋遵成著徂徠研究を読む」レツェンソ 11月
- 「田崎博士の一般経済史を読む」東京朝日新聞 11月
- ◇辞典  
「佐藤信淵」富山房刊「国民百科辞典」12月

- ◇著書  
「日本経済学説史資料(徳川時代)」3月 慶應義塾出版局
- 「近世経済史概論」5月 同文館
- 「熊沢蕃山集」10月 誠文堂
- ◇論文

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

天皇機関説攻撃高まり美濃部達吉の著書発表○岡田内閣国体明徴声明。文部省、各学校へ国体明徴の訓令。思想弾圧激化○共産党指導部壊滅「赤旗」停刊○貞崎事件、永田事件(軍内部の対立激化)、○北満金鉱会社設立、日滿経済共同委員会

この項 予科に断髪令。

- 「文書の蒐集」 文芸春秋第13年第1号 1月
- 「大名貸について—その実例—」 三田学会雑誌第29巻第2号 2月
- 「徳川期の失業問題」 行動 3月
- 「奉公人請状」 政界往来 4月
- 「徳川後期に於ける農村人口の一例—下野国都賀郡上泉村—」 三田学会雑誌第29巻第6号 6月
- 「道路雑観」 道路の改良第17巻第9号 9月
- 「社会的不安の反映」 サラリーマン 10月
- 「徳川時代に於ける農村経済の一端」 三田学会雑誌第29巻第10号 10月
- 「羽田海面移方に関する紛争—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第29巻第11号 11月
- 「播州—揆開書—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第29巻第12号 12月
- ◇書評
  - 「ペルリ提督日本遠征記」 時事新報 8月
  - ◇辞典
    - 「商業史」 富山房刊「国民百科辞典」 4月
    - 「世界商業史」 富山房刊「国民百科辞典」 5月
    - 「ギルド」 中央公論社刊「世界文芸大辞典」 11月
    - 「ギルド社会主義」 中央公論社刊「世界文芸大辞典」 11月
- ◇著書
  - 「英国経済史概論」 5月 南郊社
  - 「歴史と科学」 6月 慶應義塾出版局

設立○台湾自治制実施○全日本労働総同盟結成

○教学刷新委員会の官制公布。

(独)ザール地方人民投票、ドイツに帰属、再軍備宣言、徴兵法復活、ユダヤ人市民権剥奪。

(米)ワグナー労働法成立。

(伊)対エチオピア開戦。

○コミンテルン大会、人民戦線方式を採用。

○ロンドン海軍軍縮会議。

戸坂潤「日本イデオロギー論」、和辻哲郎「風土—人間学的考察」、島井博郎「明治思想史」、清水幾太郎「社会と個人」、務台理作「ヘーゲル研究」、小林秀雄「私小説論」、柳田民蔵「農業問題」、鈴木茂三郎「日本独占資本の解剖」、九鬼周造「偶然性の問題」、波多野精一「宗教哲学」、藤林敬三「経済心理学」、「唯物論全書」(一—三年)刊行開始。

二・二六事件、全国証券商品取引市場取引中止、東京に戒厳令、広田内閣成立、皇道派に対する肅正開始○寺内陸相自由主義排撃声明、斎

- ◇論文
  - 「淀橋町米穀問屋仲間古記録—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第1号 1月
  - 「護持院百姓門訴の判決—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第2号 2月
  - 「六郷川渡船について—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第3号 3月
  - 「後藤三右衛門」 三田評論第43号 3月
  - 「明治維新と商家心得書」 史学第15巻第1号 3月
  - 「英国資本主義の成立過程序論」 三田学会雑誌第30巻第4号 4月
  - 「播州百姓—揆拾遺—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第5号 5月
  - 「倭約論今昔観」 文芸春秋第14巻第6号 6月
  - 「江戸時代の経済思想」 歴史教育第11巻第3号 6月
  - 「上総国三ツ作村百姓越訴—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第6号 6月
  - 「天保八年の佃穀令について—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第7号 7月
  - 「本居宣長の社会経済思想—国学運動の勃興—」 三田学会雑誌第30巻第8号 8月
  - 「牛久宿助郷差村騒動—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第9号 9月
  - 「天保の貸借帳消令の実例—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第10号 10月
  - 「安濃津騒動記—社会経済史資料紹介—」 三田学会雑誌第30巻第11号 11月

藤隆夫肅軍演説○メーデー禁止通達○軍部大臣現役復活○不穩文書臨時取締法、思想犯保護観察法、言論・出版・集会・結社等臨時取締法制定○日独防共協定、社大党、労働無産者協議会反対声明○米穀自治管理法、重要肥料業統制法、自動車製造業法等の公布○陸軍、各工廠労働者の組合加入禁止、官業総同盟、社大党など陸軍に反対運動開始○三木、尾崎、蝦山らの昭和研究会設立○中野正剛らの東方会結成。

(西)人民戦線派大勝、フランス叛乱。

(伊)議會制度解消、エチオピア併合。

(中)西安事件。

徳富猪一郎「我等の日本精神」、権藤成卿「自治民政理」、木下平治「日本フアンズム史」、新明正道「フアンズムの社会観」、矢内原忠雄「民族と平和」、永田広志「日本唯物論史」、ねずまさし「フランスのフアンズムと人民戦線」、茅野蒼々「ドイツ浪漫主義」、大河内一男「独逸社会政策思想史」、清水幾太郎「日本文化形理論」、小林良正「露西亜社会経済史」、木村莊之助「日本小作制度論」、高橋里美「存在と体験」。

「常州真壁郡大國玉村百姓騒動」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第30巻第12号 12月

◇辞典  
 「産業革命」中央公論社刊「世界文芸大辞典」3月  
 「重商主義」中央公論社刊「世界文芸大辞典」3月  
 「重農主義」中央公論社刊「世界文芸大辞典」3月  
 「トレンド・ユニオンズ」中央公論社刊「世界文芸大辞典」8月

◇著書  
 「英国資本主義の成立過程」11月 有斐閣  
 ◇論文  
 「国学の社会思想的意義」三田学会雑誌第31巻第1号 1月  
 「徳川封建制と商業」社会経済史学第6巻第10号 2月  
 「維新当時における品川宿の助郷」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第31巻第2号 2月  
 「地主と地借」武蔵国八町目村一件」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第31巻第3号 3月  
 「明治初期経済史概観」『慶應義塾経済史学会紀要』第一冊上 4月  
 「大伝馬町の太物問屋」三田文学第12巻第4号 4月  
 「見沼通船と小山田與清」社会経済史資料紹介

軍部と政友会対立、政局不安のため対米為替統落、林(軍部主導)内閣成立○総選挙で民政政友連合大勝、無産政友進出、近衛内閣成立○蘆溝橋事件、中日戦争開始○北京を占領、上海に陸戦隊上陸、大本營設置○南京虐殺事件○工場事業場管理令、軍需工業動員法、輸出入等臨時措置法、臨時資金調整法、臨時船舶管理法公布○徵兵服役期限延長○総同盟、事変中スト中止を決議、争議激減、社大党国家主義に転向して戦争支持○内務省、言論取締り強化○矢内原事件○左翼的作家、評論家に対し執筆禁止○人民戦線事件、山川、荒畑、美濃部ら検挙。

(米) 景気後退。  
 (伊) 日独防共協定に参加、国際連盟脱退。  
 (中) 国共合作、抗日民族統一戦線結成、中ソ不可侵条約締結。  
 文部省思想局「国体の本義」、河合榮治郎「時局と自由主義」

1937年

(昭和12年)

とも共通で、従前の各特殊講義などのほか、新しく東亜経済事情・産業技術論をおいた。  
 向井鹿松教授兼任。

「三田学会雑誌第31巻第4号 4月  
 「見沼通船と御定運賃」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第31巻第5号 5月  
 「維新直前における百姓一揆の報告」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第31巻第6号 6月  
 「幕末における代表的経済論者佐藤信淵」三田学会雑誌第31巻第8号 8月  
 「歴史と生活」歴史と生活第1巻第1号 10月  
 「日本経済史(1-3)」慶應義塾大学「経済学講座」10・12月、13年1月  
 「アジア文化の再検討」現代の経済第1巻第2号 12月

◇論文

「岡田祺蔵の書簡と航西小記附録」歴史と生活第1巻第2号 1月  
 「領土の困窮と村方の負担」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第32巻第1号 1月  
 「宗門人別帳の起請文」現代の経済第2巻第1号 1月  
 「徳川時代の農業論」三田学会雑誌第32巻第2号 2月  
 「乳井貢の経済思想(1-2)」三田評論第48号 2-3月  
 「日本経済史の研究へ」現代の経済第2巻第2号 2-3月  
 「村騒動の一例」武州橋樹郡木月村」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第32巻第3号 3月  
 「矛盾せる日本」現代の経済第2巻第3号 3

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

御前会議対華国策決定、第一次近衛声明○国家総動員法公布(天皇制ファシズムの完成)○農地調整法、電力国家管理法、重要産業統制法など公布○張鼓峰事件、日ソ停戦協定成立○広東、武漢三鎮占領○鉄鋼配給統制規則、石炭配給規則実施○産業報國連盟、農業報國連盟結成○荒木文相大学の自治権圧迫、しばしば学生狩○労働派教授グループ検挙(第二次人民戦線事件)、河合榮治郎事件○唯研事件。

(独) オーストリア併合。  
 (仏) 急進社会党脱退して人民戦線崩壊、ダラディエ右翼内閣成立。  
 ○ 独伊仏英米ソ連、英仏の対独妥協。  
 永田広志「日本哲学思想史」、中山伊知郎「均衡理論と資本理論」、杉本栄「理論経済学の基本問題」、田中沢「プロテスタント主義の倫理と資本主義の精神」、杉村広蔵「経済哲学通論」、奥谷松治「近代日本農政史論」、森戸辰男「オウエン・モ

- 「参観交代について」 交通文化第2号 4月
- 「下総生実領助郷騒動」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第32巻第4号 4月
- 「浅野長晟の借金証文」 歴史と生活第1巻第3号 4月
- 「旗本の分度生活」社会経済史資料紹介」三田学会雑誌第32巻第5号 5月
- 「日本経済思想(1-3)」 慶應義塾大学「経済学講座」 5-7月
- 「越前侯参観交代の往路」 交通文化叢書第3輯 附 7月
- 「町人の手紙を通じて見た幕末の事件」 歴史と生活第1巻第4号 7月
- 「経済随筆」 現代の経済第2巻第8号 8月
- 「中小商業の行くべき途」 財政経済時報第25巻第9号 9月
- 「外交文書を通じて見た幕末の長崎」 三田学会雑誌第32巻第9号 9月
- 「明治維新前後の長崎」 三田学会雑誌第32巻第10号 10月
- 「社会と個人」全体と個の問題おぼえがき」 現代の経済第2巻第10号 10月
- 「統制経済と道路」 道路の改良第20巻第11号 11月
- 「町人の海防建言」 歴史と生活第2巻第1号 11月

一〇六(九一八)

リス、杉村広蔵「経済学方法史」、徳島猪一郎「皇道日本の世界化」、倉田百三「祖国への愛と認識」、高山岩男「哲学的人間学」、大塚久雄「株式会社発生史論」。

- 「平沼淑郎博士を憶ふ」 社会経済史学第8巻第8号 11月
- 「大塚久雄氏の力作」株式会社発生史論」 帝国大学新聞 5月
- 「石川博次 日本産金史」 三田学会雑誌第32巻第11号 11月
- 「小野武夫編 漁業経済史料」 三田学会雑誌第32巻第11号 11月

- 四月 大陸研究課外講座を開講。  
六月 藤原工業大学創立(現工学部)。
- ◇著書
    - 「概観日本経済思想史」 6月 慶應出版社
    - 「徳川時代の経済思想」 11月 日本評論社
  - ◇論文
    - 「古き形骸にひそむもの」黎明期としての明治維新」 科学知識第19巻第1号 1月
    - 「日本と支那」その史的交渉」 現代の経済第3巻第1号 1月
    - 「商業政策(1-3)」 慶應義塾大学「経済学講座」 1月
    - 「心学利用の御触書」 歴史と生活第2巻第2号 3月
    - 「本多利明の経済開発論」 三田学会雑誌第33巻第3号 3月
    - 「徳川貨幣制度の本質について」 史学第17巻第3号 4月
    - 「明治維新の経済思想」 社会経済史学第9巻第1号 4月
    - 「現代人の精神生活」 現代の経済第3巻第4号 4月

平沼内閣、ついで阿部内閣成立○絹織物五種に公定価格、軍用資源秘密保護法公布、米穀配給統制法公布、物価統制大綱を決定、統制経済強化される○ノモンハン事件、日ソ停戦協定成立○国民徴用令公布○価格停止令、賃金統制令、地代家賃統制令、小作料統制令、米穀強買入省令など公布○東京で日英会談○日滿華経済協議会開く○中央物価統制協力会議結成○河合栄治郎起訴、休職○内務省、自由主義的出版言論取締り○大学軍事教練必修課目となる。

(独) 独ソ不可侵条約締結、ポーランド侵入。  
○ 英仏、対独宣戦布告、第二次大戦。  
(ソ) 対フィンランド開戦、国際連盟ソヴィエトを除名。  
大川周明「日本精神研究」「日本二千六百年史」、三宅實樹「祖国の姿」、高橋里美「歴史と弁証法」、波多野精一「宗教哲学序論」、羽仁五郎「ミケルアンジェロ」、杉本栄一「理論経済学の基本問題」、中山伊知郎「ケインズ」一般論解説、堀経夫「地代論史」、白杉庄一郎「国民経済学研究」、塩尻公明「ペンサムとコールリッチ」、寺尾琢磨「統計学の理論と方法」。



- 「社会事業」概念の変遷」社会事業研究第27巻第5号 5月
- 「徳川時代の私塾生活(和氣塾塾生日記)」歴史と生活第2巻第34号 7月
- 「産業機構と貿易政策」政界往来 8月
- 「理論と実践—最近イギリスにおける経済学方法論論争—」三田学会雑誌第33巻第8号 8月
- 「この際だから」商工第1号 8月
- 「この頃のこと」科学知識第19巻第9号 9月
- 「大田ヶ村女仇討」歴史と生活第3巻第1号 11月
- ◇書評
- 「佐田介石の富国策建白」社会学徒 3月
- 「大塚久雄」欧州経済史序説」を讀む」帝国大学新聞 3月
- 「西村真次」日本古代経済」坐商・行商」三田新聞 3月
- 「安井小太郎遺著 日本儒学史」三田新聞 6月
- 「C. N. Vakil and D. N. Maluste, Commercial Relations between India and Japan 1937」三田学会雑誌第33巻第7号 7月
- 「園田一亀 鞭撻漂流記の研究」三田学会雑誌第33巻第9号 9月
- 「土屋喬雄著 続日本経済史概要」三田新聞 10月
- 「井上芳郎著 支那原始社会形態」三田学会雑誌

- 誌第33巻第11号 11月
- 「土屋喬雄著 続日本経済史概要」経済学論集 12月
- ◇辞典
- 「経済思想史・社会思想史」富山房刊「国史辞典」 8月
- 「米遣ひの経済・貴穀賤金・金持・熊沢蕃山の経済思想」富山房刊「国史辞典」 10月
- 「景気・経済・近世社会経済叢書・国民経済・貨幣経済」富山房刊「国史辞典」 12月

- ◇著書
- 「一般経済史概論」 5月 有斐閣
- 「経済史(入門経済学3)」 8月 ダイヤモンド社
- 「むかしと今と」 12月 ダイヤモンド社
- ◇論文
- 「日本商業発達史」日本評論第14年第1号附録 1月
- 「明治維新の経済思想」社会経済史学第9巻第1号 1月
- 「徳川幕府の都市政策」都市問題第30巻第2号 2月
- 「久離欠落御帳附」文芸春秋第18巻第4号 4月
- 「杉田良佐の一書翰」歴史と生活第3巻第2号 4月
- 「海保青陵の経済論」三田学会雑誌第34巻第4号 4月
- 「徳川幕府の消費統制」現代の経済第4巻第4号

六月 文・経・法学部に正科目として国防講座をおく。

米内内閣、ついで第二次近衛内閣成立○社会大衆党、政友会、民政党解党(政友会、無産政友会運動終)○日独伊三国同盟成立○大政翼賛会発会○大日本産業報国会結成○皇紀二千六百年祝典○日米通商条約失効、更新交渉不調で政府苦しみ○齋藤隆夫、反軍演説により議会から除名、(軍部への屈伏)○日本軍仏印へ進駐○日華基本条約日滿華共同宣言調印○大日本農民組合解散、日本労働組合会議解散○内閣情報局開設、文化統制を強化、日本出版協会結成○キリスト教各派純正日本キリスト教会として再出発○津田左右吉の著書発禁、起訴○文化思想団体の政治活動禁止○新協、新築地劇団員検挙、解散。

(仏) 共産党員の議席剝奪、ベタン政府独軍に降服、レジスタンス運動起る。

(独) ノルウェー、デンマーク、ペネルクス三国に侵入、パリを占領。

西田幾多郎「日本文化の問題」、田辺元「歴史の現在」、羽仁

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

- 号 4月
- 「徳川時代の生活と儉約」ラジオ講演講座 5月
- 「江戸の救貧事業」歴史と生活第3巻第3号 7月
- 「財政制度改革の必要」財政第5巻第8号 7月
- 「徳川時代村落研究序説—その靜態的研究—」三田学会雑誌第34巻第8号 8月
- 「読書偶感」慶應出版社刊「何を読むべきか」 8月
- 「インフレーション史話」ラジオ講演講座 8月
- 「日本貨幣史話」科学知識第20巻第9号 9月
- 「節約と奢侈—むかし物語—」改造第22巻第16号 9月
- 「むかしと今—徳川時代の物価賃銀引下令—」経済マガジン 9月
- 「支那に関する断章」財政経済時報第27巻第9号 9月
- 「徳川時代村落研究序説—その動態的研究—」三田学会雑誌第34巻第10号 10月
- 「江戸下肥取引について—社会経済史資料紹介—」三田学会雑誌第34巻第11号 10月
- 「明治十八年の地方惨状」歴史と生活第3巻第4号 11月
- 「熊沢蕃山—日本経世家列伝二—」文芸春秋現地報告第39号 12月
- 「上杉鷹山—日本経世家列伝二—」文芸春秋現

五郎「現代日本の起源」和辻哲郎「日本倫理思想史」、大河内一男「社会政策の基本問題」、原田綱「政治思想史概説」、大道安次郎「ミスミス経済学の生成と発展」、岸本誠二郎「價格の理論」、下村海南「昭和の維新」、奥井復太郎「現代都市論」、藤林敬三「労働科学論」、永田清「戦争経済の潮流」、河合栄治郎「学生に与う」、「岩波講座・倫理学」刊行開始。

- 地報告第40号 12月
- 「日光御用船引人足出入一件—社会経済史資料紹介—」三田学会雑誌第34巻第12号 12月
- ◇書評
- 「河合栄次郎 金井延の生涯と学説」東京朝日新聞 2月
- 「南三井家交通記録集」三田学会雑誌第34巻第9号 9月
- ◇辞典
- 「東京時代の商業」富山房刊「国史辞典」 1月
- 「会社・貨幣・海保青陵の経済思想」富山房刊「国史辞典」 3月
- 「荻原重秀の貨幣改鑄」富山房刊「国史辞典」 4月

六月 慶應義塾経済学会の会長となる。  
 九月 東洋貨幣協会の名誉会員となる。  
 四月 本科にも断髪令。  
 八月 慶應義塾報国隊を結成、学生局設置(従来の学生課を拡大)。

- ◇著書
- 「日本経済史(全)」(慶應義塾大学講座経済学) 3月 慶應出版社
- 「維新前後(経済全書4)」 4月 日本評論社
- 「徳川封建社会の研究」 5月 日光書院
- 「日本経済思想(全)」(慶應義塾大学講座経済学) 10月 慶應出版社
- ◇論文
- 「切支丹宗門改め」歴史と生活第4巻第1号 1月
- 「隠れた努力」実業展望第14巻第1号 1月
- 「桜田虎門の経済論」三田学会雑誌第35巻第1号 1月
- 「徳川時代社会事業の発生」社会事業研究第29巻第1号 1月

東条内閣成立、真珠湾攻撃、太平洋戦争開始○新聞紙等掲載制限令、国民労働手帳法、国防保安法、治安維持法改正法、生活必需品物資統制令、貿易統制令、国民徴用規則、重要産業団体令、国民学校令、言論出版集會結社等臨時取締法など公布○日ソ中立条約成立○翼賛選挙法実施、翼賛議員同盟創立○帝國石油設立(石油事業統制)○ソルゲ事件○マレー沖海戦、香港占領○新聞連盟結成、新聞事業令公布○ニュース映画強制上映○日本キリスト教団創立。  
 (独) キリンア、ユーゴ侵入、独ノ戦開始、レニングラー、ド総攻撃、対米宣戦布告。  
 (米) 武器貸与法成立、国家非常事態宣言。  
 ○ 米英洋上会談、大西洋憲章発表。  
 ○ 英ソ労働組合委員会を組織。

- 「技術と組織」工業組合 2月
- 「史料と実験」政界往来 2月
- 「荏苒木華—日本経世家列伝三—」文芸春秋現地報告第42号 2月
- 「五人組帳の形式」三田学会雑誌第35巻第2号 2月
- 「戦争と商業」都心店 2月
- 「転び切支丹類族改め」歴史と生活第4巻第2号 3月
- 「配給統制と道路」道路之改良第23巻第3号 3月
- 「新井白石—日本経世家列伝四—」文芸春秋現地報告第42号 3月
- 「ものの名」科学主義工業 3月
- 「総州岩井合戦」文芸春秋第19巻第4号 4月
- 「二宮尊徳—日本経世家列伝五—」文芸春秋現地報告第43号 4月
- 「統制経済の今昔」改造時局版第23巻、第8号 4月
- 「江戸時代の広告」日本電報 4月
- 「徳川時代の経世家」実業の日本第47巻第8号 5月
- 「武家と神官との宗門改帳」歴史と生活第4巻第3号 5月
- 「大原幽学—日本経世家列伝六—」文芸春秋現地報告第44号 5月
- 「無用の用」モダン日本 5月
- 「五人組帳の前書について」三田学会雑誌第35巻第5号 5月

河合榮治郎「明治思想史の一断面」三枝博音「三浦海園の哲学」塩野谷沢「雇用、利子及び貨幣の一般理論」高橋泰蔵「貨幣的経済理論の発展」小宮山孫三「日本中小工業研究」林房雄「転向について」高山岩男「文化類型学研究」西谷啓治「世界観と国家観」三木清「人生論ノート」三木綱現「代哲学辞典」宇尾野久「独逸農制史序論」。

- 「西洋型権衡の製作」ナショナル 5月
- 「田沼意次—日本経世家列伝七—」文芸春秋現地報告第45号 6月
- 「五人組帳を通じて見たる五人組」三田学会雑誌第35巻第7号 7月
- 「松平定信—日本経世家列伝八—」文芸春秋現地報告第46号 7月
- 「佐藤信淵—日本経世家列伝九—」文芸春秋現地報告第47号 8月
- 「資料の確実性」学燈第45巻第8号 8月
- 「水野忠邦—日本経世家列伝十—」文芸春秋現地報告第48号 9月
- 「天保饑饉後日譚」経済知識 10月
- 「田中丘隅—日本経世家列伝十一—」文芸春秋現地報告第49号 10月
- 「江戸の終末」経済情報 10月
- 「明治初年の庶民指導」エコノミスト第19巻第40号 10月
- 「技術的精神の必要」ナショナル 10月
- 「徳川光圀—日本経世家列伝十二—」文芸春秋現地報告第50号 11月
- 「技術—断章—」歴史と生活第4巻第6号 11月
- 「幕末国防論の変遷」国防教育 11月
- 「幕末の防疫」国際知識及評論 11月
- ◇辞典
- 「経済放言・桜田虎門・経世談」富山房刊「国史辞典」1月

一月 日本學術振興會第三常置  
委員會委員となる。  
四月 慶應義塾大學經濟學部長  
に就任。  
一〇月 慶應義塾報國団學術科  
理財學會長。  
三月 修業年限の短縮。  
四月 經濟學部長交替。  
一〇月 慶應義塾報國団結成。

◇著書  
「江戸時代の経世家」 4月 ダイヤモンド社  
「商業政策講話(入門経済学9)」 5月 ダイヤ  
モンド社  
◇論文  
「法令と實際—巡見使制度について—」 歴史と  
生活第5巻第1号 1月  
「阿片・香港・幕末の日本」 ダイヤモンド第  
30巻第10号 1月  
「シンガポールの経済的發展」 ダイヤモンド第  
30巻第11号 2月  
「初期経済学者の南方経略論」 実業之日本第45  
巻第6号 3月  
「心学と封建経済政策」 雄山閣刊「心学」第3輯  
3月  
「史料と批判—西洋経済史研究について—」 社  
会経済史学第11巻第11・12号 3月  
「人命尊重」 歴史と生活第5巻第2号 3月  
「商家家訓の一例—社会経済史資料紹介—」 三  
田学会雑誌第36巻第4号 4月  
「徳川時代経済思想の倫理性」 昭徳 5月  
「凶南の夢」 外交評論 6月  
「旅籠屋の争議—自由か協定か—」 歴史と生活  
第5巻第3号 6月  
「村明細帳と農村の貨幣経済化」 三田学会雑誌  
第36巻第7号 7月  
「維新農村の社会的不安」 ダイヤモンド第30巻  
第19号 7月

マニラ占領、ビルマ侵入、シンガポール占領○  
ジャワ上陸、珊瑚海海戦に敗北、ミッドウェー  
海戦に敗北、ソロモン海戦、ガダルカナル島撤  
退して守勢となる、本土初空襲○学徒出動命令  
○大東亜建設宣言、大東亜建設審議会を創設○  
日本貿易会以下一二統制会設立、大東亜圏決済  
通貨を円建とする、衣料切符制実施、海運管理  
令公布、企業整備令公布、産業統制法公布、翼  
賛壯年団、大日本婦人会、日本文学報国会、大  
日本言論報告会など結成、敵性思想排撃○戦時  
刑事特別法公布○新聞整理統合、一県一紙制○  
尾崎行雄、細川嘉六ら起訴。  
○米英ソ三国モスクワ会談。  
(ソ)スターリングラード戦で反撃。

高田保馬「民族論」、高坂・西谷・高山「世界史の哲学」、三  
木清「知識哲学」、南原繁「国家と宗教」、山田雄三「計画の  
経済理論」、板垣与一「政治経済学の方法」、永田清「財政学  
の展開」、高村象平「日葡交通史」、上原専禄「独逸中世史研  
究」、宮本又次「フランス経済史概説」、本庄栄治郎「日本経  
済思想史研究」、矢口孝次郎「ギリシヤ政治経済史」、徳富猪一  
郎「興亜の大義」、堀真琴編「現代日本政治講座」、田中美知  
太郎「ギリシヤ人の智慧」、鈴木大輔「沙土宗思想論」、小池  
基之「水田」。

五月 慶應義塾大学亜細亞研究  
所の参与となる。  
一〇月 立教大学経済学部講師  
となり、「日本経済史」を担

「わが国経済倫理と商業」 商業組合 7月  
「維新の経済転換期と武士」 実業之日本第45巻  
第16号 7月  
「職分としての商売」 日本新聞同盟 7月  
「武藤博士のことども」 社会経済史学第12巻第  
5号 8月  
「印度経済論」 国際経済研究 8月  
「武士階級よりみたる商人」 都心店 9月  
「明治二十年代の南方発展論」 歴史と生活第5  
巻第4号 10月  
「村明細帳に現れたる農村生活」 三田学会雑誌  
第36巻第10号 10月  
「辻番所」 ダイヤモンド第30巻第28号 10月  
「江戸時代農作物の種類」 歴史と生活第5巻第  
5号 11月  
「長崎町年寄高木作右衛門」 外交評論 11月  
「戦時下における運輸機関の重要性」 道路之改  
良第24巻第12号 12月  
◇書評  
「経済要録」 読書新聞 4月  
「経済人・職分人」 一橋新聞 6月  
「本庄博士 日本経済思想史研究」 三田新聞  
10月  
◇著書  
「探史余瀝」 6月 ダイヤモンド社  
「五人組帳の研究」 12月 有斐閣  
◇論文

山本司令長官戦死、アッツ島の日本軍全滅、プ  
ーゲンビル沖海空戦、マキン・タラワ島の日本  
軍全滅○日独日伊経済協定成立○製鉄工場国家  
管理、戦時食糧自給対策決定、一七職種に男子

野村兼太郎博士年譜及び著作目録



1943年(昭和18年)

当。  
七月 通商研究所開設(所長・小泉  
塾長)。  
二月 学徒出陣。

- 「地方竹馬集」について」歴史と生活第6巻第1号 1月
- 「幕末における農間渡世調査」歴史と生活第6巻第2号 3月
- 「イギリス経済の二十年」経済毎日 3月 3号 3月
- 「わが国貿易論の変遷」国際経済研究第4巻第3号 3月
- 「村明細帳を調べつゝ」日本諸学第3号 5月
- 「先覚者としての福沢先生」実業之日本第46巻第9号 5月
- 「米の飯」外交評論 6月
- 「明治初年の物産調査」歴史と生活第6巻第3・4号 7月
- 「切支丹宗門改の手続」歴史と生活第6巻第5号 11月
- 「民族移動と文化—古代朝鮮における諸民族について—」亜細亞研究 12月
- 「二宮尊徳の勤労観」婦人画報 12月
- 「拾芥甫記」について—社会経済史資料—」三田学会雑誌第37巻第12号 12月
- ◇書評  
「大山敷太郎著 農兵論」三田学会雑誌第37巻第1号 1月
- 「東晋太郎著 太宰春臺の経済倫理」三田学会雑誌第37巻第5号 5月

二月 学術研究会第七〇九研究  
班員となる。  
日本諸学振興委員会経済学部

- ◇論文  
「入会地と新田開発—社会経済史資料紹介—」三田学会雑誌第38巻第1号 1月

就業禁止女子勤員強化、軍需会社法公布、電力  
動員緊急措置決定○商工経済会、日本商券取引  
所発足、帝銀設立○大東亜会議開催○都市疎開  
計画決定○出版事業令公布、出版統制強化、中  
央公論編集員検査○日本出版協会、日本美術報  
国会など結成○学徒出陣、徴兵適令を一九歳に  
引下げ。

○カイロ会議、テヘラン会議。  
(伊) バドリオ首相就任、ファシスト党解散、無条件降伏。  
(ソ) スターリングラード攻防戦、独軍全滅。  
「国内思想戦線」林房雄「勤皇の心」、高坂、西谷、高山、  
鈴木「世界史的立場と日本」、波多野精一「時と永遠」、出  
田四郎「独逸中世史の研究」、古島敏雄「近世日本農業の構  
造」、出口勇蔵「経済学と歴史意識」、山田文雄「中小工業経  
済論」、高橋誠一郎「古版西洋経済学書解題」、小島栄次「経  
済地理学序説」。

米軍マーシャル群島、サイパン島、グワム島、レ  
イテ島に上陸、マリアナ沖海戦、フィリピン沖  
海戦にて大敗、神風特攻隊出撃、東京空襲始ま

1944年(昭和19年)

臨時委員を辞し、同委員会経  
済学部専門委員となる。  
四月 慶應義塾大学附属図書館  
長に就任、昭和三十二年三月ま  
で在任。  
この頃 勤労動員(横浜ゴム・三菱重  
工・富士電機等)。  
三月 増井幸雄教授死去。  
一月 矢野勤王教授死去。藤原工業  
大学を工学部として合併。

- 「江戸時代五人組制度の性格」歴史日本 1月
- 「江戸時代の村法」歴史と生活第7巻第1号 2月
- 「日本銀行創立秘話」経済新誌 6月
- 「東亜文化の再検討」三田学会雑誌第38巻第7号 7月
- 「江戸時代の旅日記」三田文学 8月
- 「阿部正弘」実業の日本第47巻第17号 9月
- 「堀田正睦」実業の日本第47巻第18号 9月
- 「井伊直弼」実業の日本第47巻第19号 10月

る○小磯、米内協力内閣成立○朝鮮台湾に徴兵  
実施○緊急国民勤労動員、学徒勤労動員、戦時備  
働労働員要綱を決定、女子挺身隊結成○企業  
整備協議会設置、平和産業破壊される○決戦非  
常措置要綱、一億総武装を決定○「改造」「中  
央公論」に弾圧、廃刊命令○大日本教育会、映  
画報国団、大日本戦時宗教報国会結成○延安の  
野坂参三日本人解放連盟を組織。

○連合軍、ノルマンディに上陸。  
(仏) 連合軍パリ解放、ド・ゴール臨時政府樹立。  
○四五カ国、ブレトン・ウッズ連合国通貨金融会議開催。  
○米英ソ露、ダンバートン・オークス案発表。  
和辻哲郎「日本の臣道、アメリカの国民性」、鈴木大拙「日本  
的豊性」、家永三郎「日本思想史に於ける宗教的自然観の展  
開」、土屋喬雄「明治前期経済史研究」、大塚久雄「近代欧洲  
経済史序説」、小池基之「日本農業構造論」、小松芳壽「封建  
英国とその崩壊過程」、石井孝「幕末貿易史の研究」、金子武  
蔵「ヘーゲルの国家観」。

(昭和20年)

一〇月 立教大学経済学部講師  
を辞す。  
一〇月 経済学科・商業学科の区別を  
廃止○必修科目は第一学年のみと経  
済原論・一般経済史・金融論・経営  
経済学・経済思想史・日本経済論・  
世界経済論・憲法(各一単位)○第  
二、第三学年は選択科目(各半単位)  
を半期ずつとることとした。

- ◇書評  
「土屋喬雄著 産業史」日本読書新聞 3月

大本営本土作戦計画を決定、米軍硫黄島、沖縄  
に上陸、空襲激化、鈴木内閣成立して和平方針  
を決議、広島に原爆、ソ連対日宣戦布告、長崎  
に原爆、ポツダム宣言受諾、終戦の詔勅放送、  
東久邇内閣成立、降伏文書調印○総司令部日本  
管理方針発表、戦犯に逮捕令、政治犯釈放、思  
想警察廃止、幣原内閣成立、GHQ財閥解体を  
指令、社会党、自由党、進歩党結成、婦人参政  
権を含む新選挙法成立○GHQプレスコード、  
新聞通信の自由、労働者団結権、神道の特権廃

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

1945年

1946年(昭和21年)

1947年(昭和22年)

(昭和23年)

二月 慶應義塾大学経済学部長を退任。  
 四月 義塾復興委員・協議会員を兼務。東京都食糧管理団史編纂に監修を委嘱される。  
 六月 経済学部適格審査委員会委員長となる。  
 社会経済史学会の代表理事に就任し、死去まで在任。  
 二月 金原賢之助教授経済学部長となる。  
 四月 高橋誠一郎名誉教授局長代理に就任。  
 女子共学を実施。

◇著書  
 「随筆 文化建設」 4月 慶應出版社  
 「一般経済史概論」(重版) 7月 有斐閣  
 ◇論文  
 「現代の苦悶―再刊に際して―」 三田学会雑誌第39巻第1号 7月  
 「江戸村木仲買仲間記録―社会経済史資料紹介―」 三田学会雑誌第39巻第2号 8月  
 「問屋と仲買―江戸村木商―社会経済史資料紹介―」 三田学会雑誌第39巻第3号 9月  
 「徳川封建制度の特質」 三田学会雑誌第39巻第6号 12月

止、修身、歴史、地理の授業停止など指令○市川正一、戸坂潤、三木清獄死○夕張、美唄炭坑スト、京成電鉄労働者管理、読売労組経営参加権獲得○大内兵衛ら七教授東大に復帰。  
 ○ ヤルタ会議、ボツダム会議。  
 ○ 国際連合成立、ユネスコ成立。  
 ○ 世界労連パリに結成。  
 ○ プレトン、ウツツ通貨協定調印。  
 (東南ア) インドネシア共和国、ウエトナム共和国独立。  
 大川一司「食糧経済の理論と計画」、西田幾多郎「哲学論文集第六」、吉田精一「日本文学論叢書」。  
 天皇神格否定、GHQ公職追放、超国家主義団体解散、教育改革など指令○金融緊急措置令公布○労働組合法、労働関係調整法施行○婦人参政権行使により総選挙○吉田内閣成立○極東軍事裁判開く○経済安定本部、物価庁発足○三井、三菱、安田の三社解散決定○改正農地調整法施行○新円切替、傾斜生産方針決定○日本農民組合、総同盟、産別結成、食糧メーデー開かれる○読売、毎日、全炭九州北海道、都労連、国鉄、海員、東芝、全官公労など争議。  
 ○ 国連安保理事会成立。  
 ○ ロンドン国際貿易会議、貿易機構憲章を採択。  
 (中) 政治協商会議、内戦始まる。  
 (鮮) 北鮮人民共和国成立。  
 (東南ア) フォリッピン、ビルマ独立。  
 長谷部訳「資本論」(一二年)。  
 新憲法施行、片山内閣成立○マッカーサー二

なり、「日本経済思想史」を担当。  
 六月 大学教員適格審査委員会委員となる。  
 一〇月 高等試験臨時委員(経済史)となる○近世庶民史料調査特別委員会副委員長となる。  
 一月 湖田江次法学部教授、務長に就任。  
 六月 慶應ジャーナル発刊。

◇著書  
 「日本経済思想(全)」(重版)(慶應義塾大学講座経済学) 5月 慶應出版社  
 「一般経済史概論」(重版) 8月 有斐閣  
 「日本経済史徳川時代(現代経済学叢書8)」 11月 東洋経済新報社  
 ◇論文  
 「呉服問屋と絹買指宿―社会経済史資料紹介―」 三田学会雑誌第40巻第1号 1月  
 「戦争と金融―日清戦役における金融情勢―」 三田学会雑誌第40巻第2号 2月  
 「南嶽二朱銀の流通について」 三田学会雑誌第40巻第3号 3月  
 「荏苒政以の「適言」」 三田学会雑誌第40巻第4号 4月  
 「江戸瀬戸物問屋仲間の規定―社会経済史資料紹介―」 三田学会雑誌第40巻第6号 6月  
 「福沢先生の学問論」 三田学会雑誌第40巻第7号 9月

一スト禁止(占領政策の転換) ○教育基本法、学校教育法公布、六・三・三制実施○労働基準法、独占禁止法、国家公務員法、農業協同組合法、商工協同組合法公布、民間貿易再開、復興金融金庫発足して傾斜生産開始○炭坑国家管理法成立、新物価体系成立○国民協同党、民主党結成、経団連結成○国鉄労組、日教組、全学連結成○重税に反対して全国中小工業者大会開く。  
 (米) トルーマン、ドクトリンを明らかにして冷戦開始、マインヤル・フラン提唱、タ・ハ法成立。  
 ○ 東欧九カ国、コミンフォルム設置。  
 高橋幸八郎「近代社会成立史論」、大塚久雄「近代資本主義の系譜」、大道安次郎「スミス経済学の系譜」、風早八十二「日本財政論」。  
 芦田民社連立内閣成立、昭電疑獄で倒れ第二次吉田内閣成立○極東軍事裁判判決○経済力集中排除検討のため米五人委員来日○米政府経済九原則をマッカーサーに指令○産別民主化同盟結成○官公労三月闘争、全通全国ストGHQにより禁止される。全通、国鉄非常事態宣言○中央教育復興会議成立、最初の教育委員選挙行なわれる○学術会議創立。  
 (米) マンシャル・プラン発足。  
 (独) バルン封鎖。

二月 文部省学術史料調査員となる。  
 一二月 第一回日本学術会議第三部全国区会員に選ばれる。  
 四月 通商教育館開設(わが国での嚆矢)。  
 慶應ジャーナルを盛大新聞と改称。

◇著書  
 「英国資本主義の成立過程」(重版) 1月 有斐閣  
 「近世経済史概論」 2月 自由書房  
 「日本経済史序説(古代・中世)」 3月 有斐閣  
 「福沢論吉の根本思想」(東洋経済講座叢書25) 3月 東洋経済新報社  
 「一般経済史概論」(重版) 5月 有斐閣  
 「近世社会経済史研究(徳川時代)」 5月 青木書店  
 「近世経済史概論」(重版) 6月 自由書房

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

1948年

「近世日本の経世家」(改版) 8月 泉文堂  
「経済史講話」(改版) 8月 ダイヤモンド社  
「日本経済学説史」 12月 勁草書房  
◇論文  
「経済史研究について—史家の任務—」 三色旗  
第一巻第1号 3月  
「三浦梅園の経済論」 三田学会雑誌第41巻第7  
号 9月  
「社会経済史学の意義について」 社会経済史学  
第15巻第1号 10月

(註) 朝鮮人民共和国樹立。  
大隈信行「戦争責任論」、小泉明「ケインズ」「一般理論」、毎  
日新聞「占領秘録」、平野義太郎「ブルジョア民主主義革命」、  
「一橋新聞」経済学研究会の案、高橋誠一郎「経済学史略」、平井  
新「近代思想史」、宇野弘蔵「価値論」、太田可夫「イギリス社  
会哲学の成立」、山田勝次郎「地代論争批判」、高木寿一「近  
世財政思想史」、高村象平「一般経済史(古代・中世)」、藤田  
五郎「日本近代産業の形成」、堀江英一「近代産業史研究」。

1949年(昭和24年)

四月 早稲田大学講師となり、「日本経済史」「日本経済思想史」を担当。  
五月 学事振興委員会委員。  
八月 国語審議会委員となる。  
この年 文部省科学研究費総合研究「近世庶民史料調査研究」委員長となる。  
四月 新制大学発足。  
経済学部を経済科・産業科に二分。必修科目は経済科は経済原論・研究指導(各四単位)、産業科は経済原論・一般経済史・金融経済学・経営経済学・研究指導(各四単位)とす。基本選択科目はそれぞれ六部門に分け、各一科目以上を選ばせた。研究会をやめ、研究指導を設け、半年間

◇著書  
「概観日本経済思想史」(重版) 5月 慶應出版  
社  
「一般経済史概論」(重版) 5月 有斐閣  
「経済史入門(入門経済学叢書)」 6月 広文社  
「村明細帳の研究」 7月 有斐閣  
「経済史入門」(重版) 11月 広文社  
◇論文  
「江戸時代における人口調査」 三田学会雑誌第  
42巻第3号 3月  
「福沢先生と現代日本」 三色旗第17号 8月

総選挙で民自党大勝、共産党進出、第三次吉田内閣成立。ドッジ公使、シャウブ税制改革調査団来日。行政整理、定員法成立、労働組合法、労働関係調整法改正。地域人民闘争激化、スト増大。平事件、下山事件、三鷹事件、松川事件。日独通商協定、日英通商協定調印、通商再開。単一為替レート設立。新産別結成。団体等規制令、人事院規則制定。農地委員選挙。  
○ 北大西洋条約調印。  
(米) ボイント・フォア・プログラム提唱。  
(英) ポンド三割切り。  
(独) ドイツ連邦共和国、ドイツ人民共和国成立、国府台湾に移転。  
山田勇「計量経済学の基本問題」、山田雄三「国民所得の計量理論」、名和統一「国際価値論研究」、五島茂「イギリス産業革命史研究」、中山伊知郎「資本の理論」、渡部久哉「価値論争史」、小泉信三「共産主義批判の常識」、千種義人「厚生軍

1950年(昭和25年)

六月 学術奨励審議会委員となる。  
一〇月 日本学士院会員となる。  
慶應義塾評議員となる。  
一二月 第二回日本学術会議第三部全国区会員に選ばれる。  
一月 塾監局に部課制を布く。  
九月 旧制大学最後の卒業生を送る。  
一二月 元塾長林毅氏死去。

◇著書  
「経済史入門」(重版) 1月 広文社  
「日本社会経済史(第一巻)」 3月 ダイヤモンド社  
「経済史入門」(重版) 5月 広文社  
「一般経済史概論」(重版) 5月 有斐閣  
◇論文  
「生活の計画化」 三色旗第29号 8月  
「サー・ウィリアム・ジェムズ・アシュレイ」 社会経済史学第16巻第3号 9月

朝鮮動乱。金詰まりにより中小企業危機。電産、全炭、全鉄連などスト。コミンフォルム野坂理論批判、主流派と国際派対立。OGHQ、共産党幹部追放、アカハタ発行停止。新聞、放送、通信、民間産業、政府機関、地方自治体、教職員レッド・パージ。農地改革打ち切り。警察予備隊創設、海上保安庁強化。追放者一万名を解除。イールズ事件。都公安条例反対大会。総評結成、全労連解散。幹部追放。第二次シャウブ報告発表。  
(米) トルーマン水爆製造命令、炭鉱ストにタ・ハ法。  
○ ストックホルム・アビール。  
(ソ) 第五次五カ年計画着手、中ソ同盟相互援助条約。  
(印) インド共和国発足。  
(中) 中共強硬軍朝鮮派兵。  
赤松要「世界経済の構造と原理」、末永隆甫「英国近代経済学序説」、岸本英太郎「日本労働運動史」、大河内一男「経済思想史」、小林昇「フリードリヒ・リスト研究」、青山秀太「マックス・ウェーバーの社会理論」、杉本栄一「近代経済学の解明」、千種義人「計量経済概論」、遊部久哉「価値論と史的唯物論」、山本登「世界経済論」、唯研「西洋近世哲学史」、高島編「スミス国富論講義」。

(昭和26年)

六月 文部省史料館評議会評議員となり、評議会議長に推される。塾史編纂委員となる。  
二月 藤林敬三教授経済学部長となる

◇著書  
「経済史入門」(重版) 3月 広文社  
「一般経済史概論」(重版) 3月 有斐閣  
「日本社会経済史(第二巻)」 10月 ダイヤモン

マッカーサー解任。平和擁護、単独講和再軍備反対運動高まる。四九カ国と講和条約調印、安保条約調印。炭労スト。マリク停戦提案、平和恐慌。第二次追放解除、ポツダム政令再審査許

野村兼太郎博士年譜及び著作目録



1951年

四月 新制大学開校。  
経済科・産業科の区別をやめ、研究指導をやめ、研究会を復活した。必修科目は経済原論・一般経済史、英書講読(各四単位)のみとし、基本選択第一部として六部門を設け、第二部を研究会(八単位)ドイツ書、フランス書講読とした。  
図書館学科開設。

◇社  
「日本経済史序説(古代・中世)」(重版) 11月 有斐閣  
◇論文  
「思想史研究の諸問題」 三田学会雑誌第45巻第5号 5月

可○警察法改正○社会党分裂○電産、電源スト。  
(ソ) 対日講和条約に調印せず。  
(印) 不参加。  
(鮮) 休戦会談始まる。  
新庄博「金融論」、栗原百寿「現代日本農業論」、大河内一男「社会思想史」、新明正造「社会史」、大月「マルクス主義の将来」、羽原又吉「日本漁業経済史」。

1952年(昭和27年)

八月 日本ユネスコ国内委員会委員となる。

◇著書  
「一般経済史概論」(重版) 3月 有斐閣  
「経済史入門」(重版) 4月 広文社  
「近世経済史概論」(改版) 5月 金星堂  
「一般経済史概論」(重版) 6月 有斐閣  
「一般経済史概論」(重版) 11月 有斐閣  
◇論文  
「日記を通じて見た新井白石の家計」 社会経済史学第18巻第1号 4月  
「ロシア経済史(1-2)」慶應義塾大学通信教育教材「慶應通信株式会社発行 4-10月

日米行政協定調印○破防法提案、反対闘争激化、セネスト○メーデー事件、吹田事件、東大事件、早大事件○破防法成立、公安調査庁発足、保安庁発足、警察予備隊増強して保安隊と改称○電産、炭労スト○日印平和条約調印○第四次吉田内閣成立。  
(米) グレス捲返し政策を提唱、アイゼンハワー大統領になる。  
小泉信三「平和論」、井上・小此木、鈴木「現代日本の歴史」、丸山真男「日本政治思想史研究」、小林昇「重商主義の経済理論」、理論社「資本論の解明」、河出「新経済学大系」、高村象平「アメリカ資本主義発達史」、小松芳裕「英国産業革命史」、高木寿一「現代財政論」。

(昭和28年)

この年 人口問題審議会委員となる。  
一〇月 奥井復太郎教授経済学部長となる。

◇著書  
「一般経済史概論」(重版) 2月 有斐閣  
「経済史講話」(重版) 3月 ダイワエモン社  
「経済史入門」(改版) 6月 広文社  
「一般経済史概論」(重版) 7月 有斐閣  
「On Cultural Conditions Affecting Population Trends in Japan. (The Science Council of Japan. Div. of Eco. & Com-merce, Eco. Series No. 2) (Oct., 1953. Tokyo) 10月 有斐閣  
「日本経済史(有斐閣全書)」 12月 有斐閣

第五次吉田内閣成立○内灘使用強行、軍事基地反対闘争激まる○M.S.A交渉○朝鮮休戦協定調印○日米行政協定改訂調印○スト規制法成立○独禁法緩和○昭電川崎、神戸製鋼、帝石、全日産、三井鉱山などスト○ニクソン来日、保安隊増強を強調。  
(ソ) スターリン死、マレンコフ水爆保有を発表。  
杉本栄一「近代経済学史」、中山編「日本経済の構造分析」。

1953年

四月 大学院での講義のテーマは「近世商業史」。  
八月・九月 世界人口会議に出席のため日本学術会議よりローマに派遣さる。

◇著書  
「一般経済史概論」(重版) 3月 有斐閣  
◇論文  
「大坂信用制度の基盤—紙間屋小嶋屋七兵衛の例—」 三田学会雑誌第47巻第4号 4月

「日本資本主義講座」(一五年)、出口勇蔵編「経済学史」、今中次郎「西洋政治思想史」、内田藤彦「経済学の生誕」、杉山清「マルクス価値論の研究」、石渡貞雄「農業恐慌論」、増田四郎「都市」、飯田貞一「ロシア経済史」、宇野弘蔵「恐慌論」、気賀健三「現代の社会思想」、藤田五郎「近世経済史の研究」、吉岡金市「日本農業の近代化」、近藤康男「日本漁業の経済構造」。  
M.S.A調印発効○デフレ政策○造船疑獄、指揮権発動○ビキニ水爆実験、福竜丸被災○教育二法、防衛秘密保護法、防衛二法成立、防衛庁設置、自衛隊発足○憲法擁護国民連合結成○尼崎製鋼、日鋼室蘭、近江絹糸、証券取引所などスト○日本・ビルマ平和条約、経済協定調印○鳩山内閣成立。  
(東南ア) インドシナ停戦、S.E.A.T.O組織。  
藤田・伊東編「中小工業の本質」、川口弘「ケインズ経済学研究」、高橋亀吉「大正昭和財界変動史」、小松芳裕「英国資本主義の歩み」、大川一司「農業の動向分析」、大内力「農業恐慌」、横越英一「ハロルド・ラスキ研究」、「社会学大系」、水田洋「近代人の形成」、高木寿一「近代国家財政の理論」、宇野弘蔵「経済政策論」、榊西光造「日本資本主義発達史」、高村象平「西洋経済史」、野々村一雄「ソヴェト経済論」、市村真一「経済循環の構造」、堀江英一「明治維新の社会構造」、久留間・生野井「経済学史」、占部都美「近代経営学」、山田雄三「日本経済の計画的考察」、古島、永原「商品生産と寄生地主制」、岡嘉彦「英国労働党の社会主義政策」、藤原福「フランス百科全書の研究」。

1954年(昭和29年)

四月 大学院での講義のテーマは「明治維新」。  
六月 万国学士院連合会議に出席

◇論文  
「世界人口会議に出席して」 三田評論第五六四号 3月

第二次鳩山内閣成立、神武景氣○日本生産性本部設立○日ソ交渉始まる○第一回原水爆禁止大会(広島)○砂川事件○社会党統一、共産党六全

野村兼太郎博士年譜及び著作目録



1955年(昭和30年)

席のためローマに赴く。  
九月 ハワイ大学客員教授となり、「日本経済史」「日本経済思想史」を担当。  
十一月 高村象平教授経済学部長となる。

「義塾アカデミアの変遷 経済学部の巻」 慶應新聞第一四九一六九号 6月15日-31年4月25日  
「ローマ再訪」 三色旗第88号 7月

協○民主党自由党合同して第三次鳩山内閣○日中貿易協定調印○総評、中小企業労働者組織化の方針出す○全ビル、全織綿紡スト。

○パンドン会議。  
○ジュネーブ会議。  
森島通夫「資本主義経済の変動理論」、遠山、今井、藤原「昭和史」、遊部久蔵「古典派経済学とマルクス」、大河内、岡谷「日本の労働者階級」、川田寿「アメリカ労働運動史」、琴玄龍「イギリス・ヨーロッパの研究」、平瀬巴之吉「経済学の古典と近代」、安井琢磨「均衡分析の基本問題」、白杉庄一郎「価値の理論」、マス・コミュニケーション講座、田中惣五郎「華徴秋水」、久保田明光「ケネディ研究」、今野源八郎「道路交通政策」、平田富太郎「社会政策論研究」、石渡貞雄「農民分解論」、古島敏雄「日本林野制度の研究」、今井、八木「封建社会の農村構造」、山極圭司「木下尚江」、武田、渡邊、大内「近代財政の理論」、森田健三「経済変動の統計的分析法」、木下和夫「国民所得分析」、平竹伝三「ソヴェト経済発展の分析」。

1956年(昭和31年)

二月 帰国。  
三月 環曆記念論文集刊行さる。  
東大講師辞任。  
一〇月 慶應義塾評議員を辞す。  
一月 大学教育管理を部長から分離して学長制を設け、奥井復太郎経済学部長が学長に就任。  
六月 部長改選に初めて公選制を採用、奥井(経)、阿部(医)、野村(経)の三名につき最終投票を行なった結果、奥井復太郎教授が学長に就任。従前の学長を部長に統合。

◇著書  
「一般経済史概論」(重版) 2月 有斐閣  
◇論文  
「ローマ日記(一)」 三田評論第五七一号 10月

日ソ交渉再開、国交回復共同宣言、通商議定書調印○小選挙区法案上程、審議未了○新教育委員会法混乱の末通過○憲法調査会、国防会議発足○砂川測量強行、警官隊と地元衝突○日比賠償、経済開発協定仮調印○売春禁止法成立○石橋内閣成立○国連加盟○三菱重工、金駐労、鉄鋼労連、国鉄スト。  
(米) ダレス瀬戸際政策を発表、エニウェトックで核実験。  
○ナセル、大統領となりスエズ運河国有化宣言、イスラエル、英仏軍エジプト攻撃。  
○ポーランド、ハンガリー事件。  
高橋長太郎「国民所得」、船田亨二「法思想史」、丸山真男「現代政治の思想と行動」、岸本都留編「近代経済学批判講座」、岩波講座「現代思想」、河出「経済学説全集」、気賀健三「社会的進歩の原理」、岸本英太郎「窮乏化法則と社会政策」、岡松「ソヴェト工業生産の分析」、穂積文雄「英国産業革命史の一断面」、長守善「経済政策の理論」、山岡、木原「封建社会の基本法則」、武藤光朝「経済倫理」。

1957年(昭和32年)

四月 大学の講義は「日本経済史」○大学院の講義テーマは「日本資本主義の成立」。  
四月 商学部を設置。学部長には金原賢之助元経済学部長が就任。  
科目改正、現行のものに移る。  
一〇月 寺尾琢磨教授経済学部長に就任。

◇論文  
「ハワイたより」 三色旗第一〇六号 1月  
「ローマ日記(二)」 三田評論第五七二号 3月  
「ことば」 三色旗第一一一号 6月  
「ローマ日記(三)」 三田評論第五七三号 9月  
「ポリネシア人のハワイ移住について」 三田学会雑誌第50巻第10・11号 11月

岸内閣成立、右翼抬頭○勤務評定反対運動○文部省、道徳教育を義務制とするため施行規則改正○国連安保理事会非常任理事国となる○日ソ通商条約、対インドネシア平和条約、賠償協定、第四次日中貿易協定調印○長崎で中国国旗事件○参院水爆実験禁止決議○中小企業団体法成立○不況、総評全国で実力行使。  
(シ) 人工衛星打上げ成功、フルシチョフ首相となる。  
(仏) ドゴール内閣成立。  
有沢他「現代日本資本主義体系」、遠山、山崎、大井編「近代日本思想史」、新潮社「マルクス・エンゲルス選集」、伊東佑吉「中小企業論」、小池基之「地主制の研究」、山崎功「イタリヤ社会運動史」、関山直太郎「近世日本の人口構造」、杉原四郎「ミルトマルクス」、庄司吉之助「米騒動の研究」。

(昭和33年)

三月 図書館長を辞任。  
四月 大学の講義「日本経済思想史」○大学院の講義テーマは「江戸」。  
一月 四〇年勤続者として表彰さる。  
一月 創立百年記念式典。

◇著書  
「江戸(日本歴史新書)」 8月 至文堂  
「日本経済史の研究」 11月 慶應通信  
「福沢諭吉 人とその思想」 12月 慶應通信  
◇論文  
「古ハワイにおける社会階級の発展」 社会経済史学第23巻第5・6号 2月  
「江戸書物問屋と明治維新」 経済往来第10巻第5号 5月

野村兼太郎博士年譜及び著作目録

1958年

「人類の危機―人間に課せられた問題―」 三色旗第二二八号 11月  
「古ハワイにおける漁業」 三田学会雑誌第51巻 第12号 12月

金制論、木下、藤田、橋本「現代財政政策の理論」、石上良平「英国社会思想史研究」、林栄夫「戦後日本の租税構造」、安藤精「近世在方商業の研究」、住谷悦治「日本経済学史」、わづまさし「批判日本現代史」、武山泰雄「アメリカ資本主義の構造」、田中惣五郎「吉野作造」、飯田朋「イギリス労働運動の生成」、竹内良知「昭和思想史」、現代資本主義講座、近藤康男「日本農業の経済分析」。

1959年(昭和34年)

四月 大学の講義「日本経済史」(古代・中世) ○大学院の講義「イマは「近世の法律と制度」(経済的なものを中心として)」。秋頃より心臓の発作に悩まされる。  
一月 金原賢之助商学部部長死去。  
五月 三田南・西両校舎完成。  
六月 慶應義塾労働組合結成。  
九月 産業研究所開設。  
一〇月 小島栄次教授経済学部部長に就任。

◇論文  
「日本経済史研究の変遷」 慶應義塾創立百年記念日本における経済学の百年上巻所収、日本評論新社 7月  
「文字の問題」 三色旗第一三七号 8月  
「伝統と革新」 三田評論第五八四号 10月

東京地裁米軍駐留違憲判決 ○最賃法成立 ○参院、防衛二法強行成立 ○第三次岸内閣成立 ○北鮮帰還始まる ○安保改定阻止国民会議結成、安保反対運動高まる ○主婦と生活、三池、全織、炭労スト。  
○米ソ首脳会談、フルシチョフ国連で完全軍縮演説。  
増田・小松・高村・矢口編「社会経済史大系」、筑摩「講座現代倫理」、松下圭「市民政治理論の形成」、筑摩「近代日本思想史講座」、平田宣道「近代資本主義成立史論」、平田隆夫「社会保障」、慶大経済学会「日本における経済学の百年」、桑原編「フランス革命の研究」、都留編「現代資本主義の再検討」、遊部久蔵「資本論研究史」、現代資本主義講座、宇野弘蔵「マルクス経済学原論の研究」、恐慌論講座、長洲一二「現代マルクス主義論」、古谷弘「現代経済学の基本問題」、増田四郎「西洋封建社会成立期の研究」、明治維新史研究講座。

(昭和35年)

三月 この頃より衰弱甚し。  
四月 大学の講義「日本経済史」(近世) ○大学院では前年からの継続。  
五月 しばしば強度の発作に見舞われながら、登校をつづける。

◇論文  
「学者の寿命」 三色旗第一四二号 1月  
「三田購入と島原藩」 福沢諭吉全集第八巻附録 2月  
「古ハワイにおける土地制度の変遷」 三田学会雑誌第53巻第5号 5月  
「大学教授の生活」 朝日新聞 5月  
「アシユリイ」社会経済史大系第九巻所載 8月

羽田事件 ○安保改訂調印、安保国会に対し空前の請願運動 ○会期延長抜きうち議決、新安保強行採決、連日国会、米大使館へ抗議デモ、学者文化人三千人国会行進 ○ハガチー事件 ○六・一五事件、樺美智子死 ○アイク訪日阻止 ○岸退陣。  
○ U2機侵入事件、首脳会談決裂。  
田中惣五郎「北」輝、「講座社会保障」、平井新「社会思想史

1960年

六月一〇日 医師の強い勧告により、この日から講義を断念、静養にはいる。  
六月二二日 午後九時一五分、心筋梗塞のため死去さる。  
六月二四日 通夜。  
六月二五日 午前二〇時より教会にて内葬。  
六月二七日 正午より東京四谷聖イグナチオ教会にて葬儀。  
六月 塾長改選(各学部毎に候補者と学部代表推薦人を選出し、推薦人が評議会代表と諮って決定。高村象平教授塾長となる。

◇書評  
「三木與吉郎編 阿波藍譜」 三田学会雑誌第53巻第10・11合併号 11月

研究、高村象平「ドイツ・ハンザの研究」、増淵電夫「中国古代の社会と国家」、社会経済史大系、「現代日本産業講座」、「転向」、大川編「日本経済の分析」、「日本産業史大系」、「論争・国際価値論」、島恭彦「現代の国家と財政の理論」、加藤寛「ソ連の経済成長と経済計画」、「マルクス・エンゲルス全集」、戸原四郎「ドイツ金融資本の成立過程」、「現代反体制運動史」。

(宇治順一郎・渡邊國廣・白井厚)